

HOSEI

Communication Magazine

3
2022





1区 内田隼太選手 経済学部3年 (うちだ しゅんた) 2区 鎌田航生選手 社会学部4年 (かまた こうき) 3区 小泉樹選手 現代福祉学部1年 (こいずみ いつき) 4区 河田太一平選手 社会学部3年 (かわだ たいへい) 5区 細迫海気選手 社会学部2年 (ほそき こかい)

第98回箱根駅伝で総合10位 次回のシード権を獲得しました!

2022年1月2日(日)、3日(月)に開催された第98回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で、本学陸上競技部は総合順位10位の成績を収め、次回のシード権を獲得しました。今回の箱根駅伝は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、沿道での応援はご遠慮いただきましたが、在学生や卒業生、後援会など大勢の方々の応援は選手たちの力になりました。今後も本学陸上競技部に温かいご声援をお願いいたします。



6区 武田和馬選手 社会学部1年 (たけだ かずま) 7区 中園慎太郎選手 社会学部3年 (なかの しんたろう) 8区 稲毛崇斗選手 社会学部2年 (いなげ たかと) 9区 清家陸選手 社会学部4年 (せいけ りく) 10区 川上有生選手 (かわかみ ゆうき) スポーツ健康学部3年 (写真 ©KGRR/Getsuriku)

巻頭言

2021年度卒業生へのメッセージ
法政大学総長 廣瀬 克哉

2021年度卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんの中で、入学の時点で思い描いていた通りの大学生活を送ることが出来たという人は、ひとりもないだろうと思います。コロナ禍のもので、この2年余り、大学だけではなく、社会全体がこれまで経験したことのない状況のもとに置かれました。その中でも、当初の目標に向けて出来たこともあるでしょうし、残念ながら諦めざるを得なかったこともあると思います。当初考えていたのとは違ったかたちで、目標に向けて行動できたこともあると思いますが、初めての経験のなかで、新しい目標に出会うことができた、という人もいることでしょう。

大学生活が想定とは異なっていた、というのは、実のところコロナ禍の時期に限ったことではありません。大学進学前までは想像できなかったような経験や出会いの機会が豊富に存在していることが、大学で学ぶことの醍醐味であることはコロナ前から変わりません。そして、入学時の自分にとっての「想定外」が存在するからこそ、大学生活には他では得

るところのできないものをもたらしてくれるのです。コロナ禍という想定外からもまた、何か得るものがあったはずですが、それが何であったとしても、困難な状況下でも自分の目標を実現しようとする「自由を生き抜く実践知」のひとつに他なりません。

もちろん、コロナ禍という状況は、みなさんにとって不本意な面が大きかったことと思います。大学として提供したいと思っていた学びや、その他のさまざまな活動の機会のために、残念ながら提供できなかったことも多々あります。みなさんは、その中で、実現できなかった

ことが自分にとって特に残念だったことを、ぜひ記憶に刻んで忘れないようにしてください。「これができなかった」と悔やみ続けることを勧めているのではありません。大学生活でできなかったことの多くは、少し違ったかたちではあるかも知れませんが、別の時点で実現する機会が巡ってくることもあるものです。今



「想定外」と
「できなかつたこと」を
宝にして

Hirose Katsuya

1958年生まれ。法学部教授。1981年東京大学法学部卒業、1983年同大学院法学政治学研究所修士課程修了、1987年同大学院同研究科博士課程単位取得退学、同年法学博士学位取得。同年法政大学法学部助教授、1995年同法学部教授。2008～2011年度総合情報センター所長、2012～2013年度法学部長等歴任。2012年度～現在学校法人法政大学評議員、2014～2020年度学校法人法政大学常務理事、2017～2020年度法政大学副学長、2021年度～現在法政大学総長。

後の人生の節目節目で進路を選択するときに、その「いつかはこれがやりたい」と思っていることを心の中に留めていることは、本人が意識するか否かに関わらず、実現できる確率をあげてくれるものです。大学の卒業後も、みなさんはさまざまな「想定外」に出会うはず。その想

定外を、自分を磨く機会として受け止める姿勢や知恵を、ここまでの大学生活を通してみなさんは身に付けています。たとえ本人がそんな風に意識してなくても身につけていると私は確信しています。みなさんの前途に幸多からんことを祈ります。

02 HOSEI EYE	第98回箱根駅伝で総合10位 次回のシード権を獲得しました!	18 Message	「世界に届け! 私たちのアップサイクルマスク」 現代福祉学部臨床心理学科3年 酒田 芽依さん
03 巻頭言	2021年度卒業生へのメッセージ 法政大学総長 廣瀬克哉 「「想定外」と「できなかつたこと」を宝にして」	19 THE SCENE	VOL.134 空手部
04 2022 Graduation	卒業 学生生活を振り返って	20 後援会だより	「～親子でつづる法政の4年間～」
09 ご卒業される皆さんへ		24 HOSEI ミュージアム	VOL.024 「戦前戦後の本学を見つめ続けた第一校舎」
10 卒業生インタビュー	「キャリア探しは卒業後も続く 成長するためには、変化も必要」 株式会社西武ライオンズ 広報部 リーダー 服部 友一さん	25 校友会だより	
12 ESSAY	「思いやりの心はどのように育つのか」 文学部心理学科 教授 渡辺 弥生	30 広報誌「HOSEI」	総目次 2021年度(2021年4月号～2022年3月号)
14 HOSEI PHRONESIS	VOL.42 「条件の厳しい農山村の未来に向けて 現地に寄り添った政策づくりのまい進」 現代福祉学部福祉コミュニティ学科 教授 岡司 直也	32 HOSEI TOPICS	
16 MY CAMPUS, MY LIFE	法学部政治学科 土山希美枝教授・廣瀬克哉教授ゼミ/小金井漫画研究会	34 実践知大賞	2021年度(第5回)「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を開催しました
		35 BOOKS	

COVER 小金井キャンパス 撮影:平野 太郎

小金井キャンパスの北館は白色の角タイルを使用した近代的な印象の建物で、理工学部の実験室や研究室が配置されています。環境にも配慮した設計で、壁面に取り付けられたソーラーパネルが特徴となっていて、外光を取り込んだ明るい踊り場では卒業間近の4年生たちが楽しげに話し合っていました。



2022
Graduation

卒業

学生生活を振り返って

全15学部の卒業生たちに、
法政大学で過ごした4年間の
大学生活で学んだことや
将来への抱負を語ってもらいました。



法学部
国際政治学科
(グローバル・ガバナンスコース)
本多美樹ゼミ
竹内章

Takeuchi Akira

「学び続ける」ということ

40歳を過ぎた社会人でありながら未知の分野を学びたいと一念発起して飛び込んだ法政大学は、結果としてかけがえない時間を過ごした大切な場所となりました。特に国際関係学や政治学など専門分野の知識を得たことに加え、4年間の大学生活を通じて「学び続ける」ことにこそ人間として生きる価値があると再認識することができ、今後の人生を豊かにする大切な糧を得ることができました。「考えること」「学ぶこと」の重要性を実感した今、この先も無為徒食の生活を恐れ、法政大学の名に恥じぬよう学び続ける姿勢を実践していく決意です。最後になりましたが、ご指導いただきました教職員の皆さま、そして世代の垣根を越え、共に切磋琢磨した学友たちに感謝申し上げます。これから社会に飛び立つ若い同級生たちがこの先も学び、考え、挑戦し続けること、法政大学がそのような挑戦をサポートし続ける場所であることを願っています。



社会学部
社会学科
(国際・社会コース)
堀川三郎ゼミ
大槻光

Otsuki Hikari

「日常」の見方を変える社会学を学んで

入学した当初の私は、決して真面目な学生ではありませんでした。人生で最も頑張った受験勉強を乗り越えて入学したにもかかわらず、ただ講義を受動的に受けるだけで大学生活は淡々と過ぎていくばかりでした。このままでは何かを得ることもなく、あつという間に4年間が過ぎてしまふ——。漠然とした焦りを感じた私は、現地調査の知識と技法を学び、社会調査士資格も取得できる社会調査実習を受講しようと決めました。

最初は人前でうまく話すことができず、プレゼンテーションで発表することに対して苦手意識を持っていましたが、何度も経験するうちに、自然と人前でも堂々と話せるようになりました。気持ちに余裕が持てるようになり、もっと分かりやすく伝えようと考えて、工夫するようにもなりました。ゼミ活動を通して、私はとても成長することができました。就職してからも、これらの経験を生かして頑張りたいと思います。



文学部
心理学科
高橋敏治ゼミ
中野友貴

Nakano Tomoki

4年間で得られた成長

大学での4年間は、非常に充実したものになりました。その大半は体育会での活動と勉強です。モーターボート・水上スキー部に所属し、仲間と過ごすことで多くの成長につながりました。水上スキーは大学から新しく始めたスポーツで、つらく大変だった思い出は数多くありますが、それを上回るほどの楽しさや喜びがあり、仲間と過ごしたかけがえない時間は一生の宝物です。

特に3年次・4年次は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、チームメイトや卒業生の存在に感謝すると同時に、自分自身の成長にもつながれたと思います。

高橋ゼミでは、卒業論文の執筆に当たって豊富なアドバイスを頂き、大変ありがたく感じています。ここでの経験を今後社会で役に立てたいと思います。多くの方々に支えられた4年間で、お世話になった方々に感謝しながら、次のステージで活躍できるように精進していきます。



経営学部
経営戦略学科
河口治夫ゼミ
安藤秀次

Ando Hidetsugu

学び、気付きを次のステージへ

経営学部には、学問上の知識にとどまらない学びや気付きが数多くありました。私は国際経営論を専攻し、企業が外国市場へ参入することで生まれる優位性や諸課題、多国籍企業の国際経営戦略について学んできました。洞口ゼミや専門科目で知識を修得する過程では、「なぜ」を繰り返して物事の本質に迫ることの重要性に気付かされ、そこに学ぶことの楽しさを感じるようになりました。

また2年次にはSA(スタディ・アップロード)プログラムに参加し、帰国後は英語学位プログラム、GBPの科目を積極的に履修して英語で経営学を学ぶことにも挑戦しました。同年代の外国人留学生が持つ意見や考え、価値観に触れたことで視野が広がり、物事を多面的・多角的に捉えることを常日頃から意識するようになりました。卒業後は商社に入社します。経営学部で得た学びや気付きを生かし、国内外問わず活躍するビジネスパーソンを目指します。

*1 | GBP:正式名称はGlobal Business Program



国際文化学部
国際文化学科
(表象文化コース
深谷公尊ゼミ)
島田 真歩

Shimada Maho

4年間での 学びと出会い

国際文化学部では4コースの授業や海外留学などを通じて多くの能力を培うことができます。特に学部の目標の一つでもある「自己の文化的枠組みにとらわれない幅広い知識と柔軟な理解力」は多様性が重視される社会において重要なものであると考えます。演習では映画におけるセクシャリティの表象について研究しました。さまざまな角度から社会問題と向き合い、表象の在り方を考察できたのも、授業や留学から多様な知識や理解力が得られたからだと思っています。

これは親身になって相談に乗ってくださる教職員の方々や、高い志を持った仲間が存在がなければ成し遂げられなかったでしょう。このような経験や出会いに恵まれた法政大学での4年間は、非常に充実したものでした。大学生活で得た学びを生かして、これからも成長し続けていきたいです。お世話になりました深谷先生、教職員の皆さま、友人、家族に心より感謝申し上げます。



キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科
松尾知明ゼミ
松元 成美

Matsumoto Narumi

多くの出会いに感謝

さまざまな人との出会いは、自分の視野を広げるきっかけになりました。ゼミでは多文化共生をテーマに、交流やディスカッションに取り組みました。日本語学校に通う学生や障がいを持つ方など、多様な背景を持つ方との交流を通し、一人一人が輝く社会の実現に向けた気付きを得ることができました。留学生と共に講義を受けるESOPを受講し、英語で日本文化について学ぶことにも挑戦しました。コミュニケーションの難しさを感じたものの、意見交換や文化体験は自分にとって大きな成長につながりました。

こうした多くの出会いや経験は、私にとってかけがえない財産となりました。大学で培ったことを生かし、人のために自分ができることを常に考え、自分なりのキャリアを描いていける社会人になりたいと思います。

学生生活を支えてくださった教職員の皆さま、先輩、サークルやゼミの仲間、友人、そして家族に心より感謝申し上げます。



人間環境学部
人間環境学科
(ローカル・サステイナビリティーコース
辻英史ゼミ)
山森 日菜子

Yamamori Hinako

将来の姿を 明確にするために

人間環境学部で「持続可能性」を軸にさまざまな分野の学問に触れたことで、自分の将来像を明確にすることができました。入学当初は何を目指したいのかよく分からず、遅れを感じて焦っていたのを覚えています。

しかし、環境・福祉・貧困・経済・文化・ジェンダーなどの多様な学問を扱う講義や、直接現地に赴いて学ぶフィールドスタディ(現地実習)などに参加していくと、自分の世界が広がると同時に、関心も絞ることができました。ゼミの研究では最も関心のある社会福祉分野を研究し、社会的な弱者が生まれてしまう背景から、誰も取り残さない社会を実現しようと試みることに大切さを学びました。

大学での経験から、卒業後は社会福祉士の資格を取得するため専門学校へ進学し、将来は福祉の分野で活躍したいと思っています。

学びを豊かにしてくださいました辻先生、教職員の皆さま、支えてくれた家族、友人に心より感謝申し上げます。



GIS(グローバル教養学部)
グローバル教養学科
新谷優ゼミ
寺嶋 諒

Terajima Ryo

世界中の文化や人と 触れ合った学生生活

世界で活躍したいという夢があり、GISに入学しました。1年次から履修していた中国語に没頭し、派遣留学は臺灣(台湾)に、OASでは米国に赴きました。言語を習得し、世界中の人と対話ができるようになったのは、人生で最も大きな収穫です。

臺灣に留学した頃は、蔡英文政権の選挙があり、香港でデモ活動がありました。中国語で大陸、臺灣、香港の方と対話すると、三者それぞれで世界の見方や考え方が全く違います。「違っていい。それでも人として共通する部分は一緒で、分かり合える部分がたくさんある。愛し合うことができる」。そう感じる体験でした。

今では、世界中どの大陸にも友達と呼べる存在がいます。「日本語を話すときと英語を話すときは、なぜか人格が変わる」という疑問は、新谷ゼミでの研究で思う存分ぶつけました。最後に、応援してくださいました方への感謝を忘れず、世界へとまい進していきます。



現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
保井美樹・今井裕久ゼミ
松井 宏樹

Matsui Hiroki

全ての出会いと 学びに感謝

現代福祉学部での4年間を通じて、さまざまなフィールドで多くの人と出会い、人々が抱える潜在的なニーズや課題について理解することができました。ゼミ活動ではエリアマネジメントを専攻。地域おこし協力隊に所属する卒業生が主催する現地でのワークショップに参加した他、グループに分かれて現地調査を行う「マイプロジェクト」を実施。私のグループは奈良県宇陀市へ調査に赴き、その活動をまとめた懸賞論文では入賞の評価をいただくことができました。

このような出会いと学びが、私のWell-beingの礎です。大学生活を支えてくださった保井先生・今井先生はじめ教職員の皆さま、地域の方々、友人、何時も支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。

社会福祉士の実習として大学近くの地域包括支援センターで1カ月間学び、2年次には海外研修にてスウェーデンを訪問。現地の学生や施設の方と交流を深めました。

このように出会いと学びが、私のWell-beingの礎です。大学生活を支えてくださった保井先生・今井先生はじめ教職員の皆さま、地域の方々、友人、何時も支えてくれた家族に心から感謝申し上げます。



スポーツ健康学部
スポーツ健康学科
(スポーツビジネスコース)
吉田政幸ゼミ
西田 光希

Nishida Miki

「好き」に打ち込んだ 4年間

私はスポーツが大好きです。大学生活は、「スポーツをする・見る・支える人々」の行動について学んだり、第二体育会陸上競技部で選手として活動したり、陸上競技審判の資格を取得したり、フィットネスクラブの受付アルバイトに従事したりと、「好き」に全力で打ち込んだ4年間でした。忙しくも充実した日々を過ごすことができたのは、周囲の支援があつてのことです。感謝申し上げます。

特にフィットネスクラブのアルバイトは、授業で得た知識をアウトプットする絶好の場となり、有意義な時間でした。卒業論文の調査にもご協力いただき、スタッフやお客さまから温かい言葉を掛けていただきながら、執筆を進めることができました。学びの中で自身の興味や関心を形に残すことができ、得も言われぬ充足感に満たされています。

この経験は今後も生きてくるものと確信しています。これからも周囲への感謝を忘れず、精進していきたいと考えています。

*2 ESOP: グローバル教育センターが主催する交換留学生受け入れプログラム

*3 OAS: 正式名称はOverseas Academic Study Program。米国、英国、カナダ、ニュージーランドの各協定大学で4~10カ月(長期はニュージーランドのみ)にわたって、正規の学部授業を学ぶプログラム



情報科学部
コンピュータ科学科
(コンピュータ基礎コース)
サイバーシステム研究室
(藤田悟研究室)
三沢 桃羽

Misawa Momoha

充実した 4年間を振り返って

大学4年間を通してたくさんの人に出会い、たくさんの経験をしました。先輩に憧れて、学部のコンピュータ資源を管理している学生団体「CIS RAI」に1年次から所属しました。2年次の終わりに5年に1度のリリース(情報教育基盤システムの更新)を経験。そこで最初からサーバー構築する作業を担当しました。初めは荷が重いと感じましたが、先輩や同輩と一緒に試行錯誤し、無事に達成することができました。頼れる仲間の存在の大切さを改めて実感し、実践を通じて知識をきちんと自分の技術にすることができました。

コロナ禍で不安が広がる中、大学全体が迅速に対応してくださったおかげで、オンラインの良さを感じる授業を快適に受けることができました。友人と直接会うことはなかなかできませんでしたが、オンライン飲み会やオンラインゲームを通じて交流を継続し、楽しく過ごすことができましたと感じています。



生命科学部
生命機能学科
分子遺伝学研究室
(佐藤勉研究室)
平井 萌花

Hirai Moka

自分の「大切」を知り、 尊重できた4年間

私の学生生活は、工学部マンドリンクラブと研究活動の2つで語ることができます。

工学部マンドリンクラブでは弦楽器オーケストラの楽しさに魅了され、多くの時間を費やしてきました。コロナ禍で活動が制限される中、試行錯誤して演奏会を成し遂げた経験は、これからの人生で困難に遭遇したときに背中を押してくれると確信しています。

研究活動では、自然界から新種のバクテリアファージ(ウイルス)を探索する研究を行いました。高校生の頃、生物学を学び始めるきっかけとなったファージへの興味を持続させ、研究に打ち込めたことは4年間で最も意味のあることだと感じています。

課外活動と研究活動の両立は大変でしたが、どちらもやりきった今では非常に手応えを感じています。両立を支えてくれたサークルと研究室の仲間、そして温かいご指導とご理解をいただいた分子遺伝学研究室の佐藤勉教授に心から感謝申し上げます。



デザイン工学部
システムデザイン学科
ヒューマンデザイン研究室
(安積伸研究室)
桑嶋 玄樹

Kuwajima Genki

全力で駆け抜けることで 見えるもの

私はデザイン(ものづくり)が好きという理由でデザイン工学部に入学しましたが、実際の「デザイン」は自分の考えていたもの以上に幅広く奥深いものでした。

1年次から2年次にかけて分野を横断した考え方やスキルを学び、初めは授業に付いていくのに必死でした。しかし、学年が上がるにつれて出展や企業共同プロジェクトなどの実践的な校外活動が増え、多才な教授方による丁寧な指導を通して、徐々に点が線となるように確実に自分の力になっていると実感しています。校舎が都心に位置するため、多くの企画展に参加できたことや、デザインサークルでの意欲的な仲間との出会いも刺激となり、恵まれた環境の中で密度の濃い4年間を過ごすことができました。

ここでの経験は、今後の人生において貴重な財産であり、自分の可能性を大きく広げるものとなりました。修士ではさらに知見を深め、より一層精進していきたいと思っています。



理工学部
機械工学科 機械工学専修
伝達機構・機械振動研究室
(相原建人研究室)
長谷川 優太

Hasegawa Yuta

充実した4年間

法政大学の4年間では、多くのことを得ることができました。付属校からの推薦で入学したものの、入学当初は同級生との差を感じ、毎日付いていくのに必死だったことを覚えています。今では、大学でできた友人の助けもあり、大学院の推薦をいただけるまでになりました。

3年次にはコロナ禍となり、対面での授業が制限された影響で、友人と会う機会も減ってしまいました。不自由を感じることも多く、自分に何ができるのか手探り状態でしたが、今までは異なる貴重な体験ができたのではないかと思っています。

さまざまなことがありましたが、ある意味充実した4年間だったのだと思います。先生方や友人をはじめ、厳しい状況の中で関わってくくださった多くの方々感謝申し上げます。次年度は法政大学大学院に進学します。少しでも理工学部や法政大学に貢献していけたらと思っています。これからもよろしくお願ひします。

ご卒業される皆さんへ

晴れてご卒業の日を迎える皆さん、おめでとうございます。
後輩の就職活動支援や卒業生ネットワークづくりのための情報入力にご協力ください。
卒業後の証明書は、郵送や窓口での申請に加え、オンラインでの申し込みもできますので、必要に応じてご利用ください。
なお、ご提供いただいた個人情報につきましては個人情報保護法などの法令を順守し、適切に取り扱います。

「進路報告」および「就職活動体験記」入力をお願い

卒業後の進路について、キャリア就職システムへの登録をお願いいたします。
卒業後は、自身の登録内容を更新することができなくなります。就職や進学の方、現時点で進路が未定の方も含めて、卒業される全ての方に入力していただいています。法政大学情報ポータルサイトからキャリア就職システムにログインし、「進路報告」をしてください。また、「就職活動体験記」の入力も、ご協力をお願いいたします。
進路報告は、文部科学省などへの統計調査の基礎データとして使用するとともに就職状況などの分析を行い、本学の就職支援の強化を図るために利用します。
また、就職活動体験記の内容は、先輩の就職活動の経験を後輩へ伝えるための貴重な財産として活用いたします。

卒業生の住所等連絡先の登録について

学校法人法政大学と卒業生(各付属高校卒業生から大学院修了生まで)との連絡を密にする目的で、卒業生のデータ整備を進めております。
転居、改姓、転職をされた際には下記の要領で大学までご連絡をお願いいたします。

●インターネットによるご連絡

- ① 大学公式ウェブサイト「卒業生の方へ」をクリック
- ② 「卒業生の連絡先の変更」をクリック
- ③ 「卒業生住所等変更届(オンライン※国内のみ)」から入力ページにアクセス
https://www.hosei.ac.jp/hosei/renkei/orangenet/sotsugyo_db/
卒業生の個人情報の取り扱いについては、以下URLページをご参照ください。
<https://www.hosei.ac.jp/privacy/sotsugyo/>

卒業後の証明書申請について

各種証明書(卒業証明書、成績卒業証明書など)は、パソコンやスマートフォンなどからアクセスすることで、国内外を問わず、24時間いつでもオンライン申し込みをいただけます。詳しい手続きは、大学公式ウェブサイトをご覧ください。

※2021年度卒業生は3月24日(木)まで本システムから卒業証明書、成績卒業証明書の申請ができません。所属窓口にて予約票の手続きをしてください(予約票の手続きには期限があります。所属により異なりますので、所属窓口でご確認ください)。新型コロナウイルス感染症の影響により、手続き方法は変更の可能性があります。
※オンライン申し込みには、別途所定のシステム利用料が発生します。
※オンライン申し込みでは発行できない証明書もあります。

問い合わせ先

キャリアセンター市ヶ谷事務課
☎03-3264-9604
法政大学ポータルサイト
<https://www.as.hosei.ac.jp/>
キャリアセンターウェブサイト
<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/>

連絡先

法政大学卒業生・後援会連携室
☎03-3264-9230
E-mail: koyu@hosei.ac.jp
卒業生住所等変更届(オンライン※国内のみ)



注1) 大学へ登録されるデータは、各種卒業生組織が管理するデータとはリンクしていません。卒業生組織へ加入している方は、それぞれの事務局へも各種変更のご連絡をお願いいたします。
注2) 卒業生データの登録は、必ずご本人の責任のもとでお願いいたします。

証明書発行の申請方法について



*4 CIS RAI:正式名称はFaculty of Computer and Information Sciences-Resource Administration Team



HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

キャリア探しは卒業後も続く 成長するためには、変化も必要

株式会社西武ライオンズ 広報部 リーダー

服部 友一さん

大学ではメディアについて学び、念願のアナウンサーとして就職。テレビ局での仕事を通じて、メディア発信にもいろいろな形があると知り、違う形で自分の力を試したくなったという服部友一さん。就職はゴールではない、仕事をするうちに見えてくること、分かってくることもあるといいます。

事業体としての 球団の戦略や取り組みを発信

2019年10月から西武ライオンズの広報を担当しています。球団の広報はチームや選手への取材の対応というイメージが強いと思いますが、私の担当は事業広報で、イベントや事業活動に関する情報発信を通じて、会社の戦略や球団の魅力をPRしています。

2021年のシーズンの開幕前、3年がかりの改修工事が終わり新しいドーム球場になりました。その前のシーズンはコロナ禍の影響で、開幕が遅延された上に無観客で開催となったため、ゼヒファンの方に観戦していただくたくて、スポーツメディアだけでなく、情報・報道番組の関係者にも働きかけて取材を誘致したのです。ちょうどオリンピックの観客の有無が議論されていた頃で、多くの新聞やテレビ番組でドームの感染対策や安全性を報



ドーム改修工事後のメディア内覧会。服部さんは150人の報道陣の対応を担当

道してもらえました。情報を適時に大々的に発信し、自分の意図した文脈で世に伝えるという広報の責任を果たせ、大きな達成感を味わいました。

プロ野球球団は、主な収益源であったチケット販売や売店での販売など試合興行に関する売り上げなどが伸び悩み、これまでの事業方針からの転換期にあります。西武ライオンズでも、コンサートや展示会の招致の他、選手プロデュースの弁当や地元野菜を使ったレストランメニュー開発などグルメやグッズの分野でも新たな戦略を展開しています。それには野球とは違う形、違う相手へのPRが求められるので、広報の腕の見せどころだと思っています。

アナウンサーを目指して 法政の社会学部と自主マスへ

高校2年生の時に、地元テレビ局で高校野球応援番組の収録に参加する機会があり、司会者が進行を仕切る様子が格好よくて、「アナウンサーを目指す」と決めました。そのために大学



アナウンサー時代は、昼のニュースや夕方方の情報番組などを担当した
提供：株式会社鹿児島読売テレビ

ではメディアについて学ぼうと考え、法政大学社会学部に入学したのです。

1年次から、マスコミ就職を支援してくれる自主マスコミ講座に参加し、週1回の講座の日以外も、多摩キャンパスで昼休みに仲間と発声やニュース読み、面接の練習に励んでいました。

社会学部の授業では、まだそれほど普及していなかったSNSなど、メディアの最先端を学べたおかげで、社会人になってそれらが台頭してきた時に、スムーズに対応できました。また、田中優子教授（現名誉教授）のゼミで江戸文化にも触れました。テレビ局時代は史跡を取材する機会も多く、大学時代に歴史の知識を身に付けていたことが役に立ちました。

就職活動ではひたすらテレビ局を受け続け、ほぼ100社目でようやく内定を頂けました。あの時のうれしさは今でも忘れられません。

アナウンサーを通じて知った マスコミ以外のメディア業務

アナウンサー4年目に情報番組の担当になり、取材の機会が増えました。ある焼酎メーカーの広報担当者が「日本中に自社の焼酎を広めるのが夢」と熱心に語っている姿がとても印象的でした。取材先の皆さんの熱い思いに日々接するうちに、自分もビジネスに

直結する仕事をしたいという思いが強くなっていきました。今後数十年のキャリアのためにも、できることを増やして成長したいと考え、悩んだ末に第三者としてではなく当事者として情報を発信する道を選び、テレビ局を辞めました。

その後、ショッピングモールのマーケティングや広報、PR会社のコンサルティング営業を経験して、これが自分のやりたいことだと確信でき、やるからには広報のプロフェッショナルを目指そうと思うようになりました。

業界や業務の枠に収まらず、 自分の軸とつながるものを見つける

テレビ局、ショッピングモール、PR会社、プロ野球球団と業界は異なりますが、大学でメディアについて学び、マスコミや企業でメディアの仕事をしているので、私の中では芯が通っています。「生涯一社」という時代ではないし、自分自身の軸がブレていないのなら、何回転職しても、業種が変わっても問題ないと思っています。

スポーツは、どの業界ともつながれるため、新ビジネスの種の宝庫といえます。私自身、テクノロジーを生かした施策や商品のほか、新ドームでの映像や音響、照明を活用した演出など、スポーツとは直接関係のない最新の知

見やナレッジに触れる機会が多く、それを生かしてアウトプットのバリエーションを広げていきたいと思っています。現在は広報としてアウトプット部分を担当するケースが中心ですが、それ以前の企画段階や経営戦略立案の段階から関わる機会を増やしていきたい、上流工程からの関わりをアウトプットに反映させることを目指しています。

社会に出て仕事をしていくと、学生時代には見えなかったもの、気付かなかったことが出てくるものです。社会の変化は大きくかつ速くなり、業界や業務の壁もなくなりつつあります。就職をゴールと捉えて腰を落着けてしまわず、いろいろなことに挑戦して、ぜひ自分の幅を広げていってください。きっと、その中に自分の軸とつながるものがあるはずです。

Hattori Yuichi

1988年千葉県生まれ。2007年社会学部メディア社会学科に入学。2011年、アナウンサーとして株式会社鹿児島読売テレビ（KYT）に入社。2013年3月、NNSアナウンス大賞新人賞を受賞。その後、PR会社などを経て2019年10月、株式会社西武ライオンズに入社。





思いやりの心はどのように育つのか

文学部心理学科 教授 渡辺 弥生



「キティ・ジェノヴィーズ事件」をご存じでしょうか。これは、1964年に米国ニューヨーク市のクイーンズ区で発生し、人の心の深い闇が垣間見えた事件です。女性が仕事から帰宅する途中、自宅近くの路上で暴漢に襲われて殺害されたのですが、この事件が後々までも取り上げられた背景には、彼女が犯人に攻撃されるのを目撃した人が多くいたにもかかわらず、誰一人警察に通報しなかったという震撼とする事実がありました。

他方で、人は自分の命を犠牲にしてまで他人の命を助けることがあります。世界中に、こうして人の命を救った美談は多くあります。命とまではいかないまでも、私たちは互いに思いやり、誰かを援助したり、物を分け合ったり、困っている人を救助したりといった状況を日常生活で経験しています。これは向社会的行

動 (Prosocial Behavior) と呼ばれます。私は攻撃行動よりも、この思いやりの行動に関心を持ちました。そして、こうした心は生まれてからどのように発達していくのだろうかと思ひ、発達心理学に強く関心を持ったのです。

ずるい、ずるくないという気持ち

子どもたちの日常生活を観察していると、しよつちゅう「いざこざ」があります。物の取り合い、遊びの順番でのトラブル、おやつが多い少ないなどの不平といった場面です。そこで多く発せられる子どもたちの声は「ずるい！」という言葉です。一体子どもたちにとってどういうことが「ずるい」と認知されるのでしょうか。

こうした分配における正義のことを、分配的正義 (Distributive Justice) とい

ます。この分配における公正観の発達が、私の博士論文のテーマとなりました。私たち大人は、クッキーが一つしかないとき、子どもが2人いれば半分こにしようとしています。つまり「同じ数ずつ分けるのが良い (均等分配)」という考えが習慣付いています。しかし、子どもによっては「たくさん頑張った方がたくさんもらうべきだ (公平分配)」「おなががすいている子がたくさん食べればよい (必要に応じた分配)」「あの子はいつも食べられないから、全部あげてよい (愛他的分配)」「自分だけ欲しい (利己的分配)」といったさまざまな主張があるわけです。こうした分配に関する正義は、大人との関わり方や教育に影響されますが、利己的分配から均等分配、公平分配、必要に応じた分配や愛他的分配へと発達していく道筋があることが分かりました。

思いやりをどう育てるか

前任大学での所属は教育学部で、小学校などに出掛ける機会が増えました。当時は校内暴力やいじめの問題が深刻な時期で、思いやりの研究を現場で役立てなければ、実践知ではないという思いを強くし、思いやりを育てる教育を研究するようにになりました。そこでまず巡り合ったのは、思いやり育成プログラム (Voices of Love and Freedom) です。このプログラムの提唱者であるハーバード大学教育学研究科のセルマン教授のところへ客員研究員として派遣されることになり、米国の学校で実践を経験しました。米国から戻ってきた私は、幼稚園と小学校でこのプログラムを実践することになりました (写真1)。



写真1: 思いやり育成プログラムの様子

人権教育にも関わることになり、米国からセルマン教授を招いてシンポジウムも開催しました。このプログラムでは、自身を理解する上で自分とは異なる他者の理解が必要であり、どれくらい相手の

立場や視点に立てるかという役割取得能力 (Role-Taking Ability) を育てることが、対人関係のトラブルや葛藤を解決すると考えられています。プログラムではパートナーインタビュー、ペアでのロールプレイ、相手を想定した手紙を書くなど、他人の視点を取るワークを中心に実践します。

学校危機予防教育

法政大学文学部に着任してからは、いじめ、不登校、非行など多くの問題に個別に介入していくことよりも、むしろ、こうした子どもたちについて降りかかるか分からない個々の危機を大きく学校危機と捉えて、その「予防」をしていきたいと考えるようになりました。カリフォルニア大学サンタバーバラ校では、危機予防プログラム (Power of Play) にスペシャリストとして参加しました (写真



写真2: 危機予防プログラムのメンバー (後列右から2人目が筆者)

2)。いじめや仲間との嫌な体験は、休み時間に起きることが多いものです。このプログラムでは休み時間に大学生が運動場に配置され、独りぼっちの子どもに遊ぶスキルを、けんかをしている子どもたちには問題解決のスキルを教えるなど、ソーシャルスキルを学ぶ機会を与えます。このプログラムは、学校でいじめを減らし、向社会的行動を増加させました。日本でも、こうした取り組みを参考に、ソーシャルスキルトレーニングをして、子ども、ときには大人を対象に実施しています。東京でホストとして開催した国際学校心理学会では、こうした取り組みをテーマに海外の教育関係者や研究者と交流しました。

子どもたちの心の発達にはまだまだ不思議なことがたくさんあります。子どもたちの持つポテンシャルに鍵をかけてしまふことなく、伸び伸びと成長できるように支援していきたいと思っています。現在の研究課題は、子どもたちの感情 (気持ち) の調整力を伸ばす支援です。頭では分かっている望ましくない行動をしてしまうのは、悔しさ、怒り、悲しさ、惨めさなどのネガティブな感情に翻弄されてしまうからです。こうした感情を調節できるスキルを発達に促して学べるようなカリキュラム、指導案、教材などを、志を同じくする仲間や大学院生と協力して開発し、効果を検証している最中です。乞うご期待!



Watanabe Yayoi

専門は発達心理学、発達臨床心理学。筑波大学大学院博士課程心理学研究科で学んだ後、筑波大学、静岡大学を経て現職。途中、ハーバード大学在外研究員、カリフォルニア大学サンタバーバラ校客員研究員。法政大学大学院ライフスキル教育研究所所長。教育学博士。主な著書に『感情の正体—発達心理学で気持ちをマネジメントする』(ちくま新書)、『子どもの「10歳の壁」とは何か?—乗り越えるための発達心理学』(光文社新書)、『親子のためのソーシャルスキル』(サイエンス社)、『まんがでわかる発達心理学』(講談社) など。



条件の厳しい農山村の未来に向けて 現地に寄り添った政策づくりにまい進

中山間地域の農山村が、次世代につながるよう地域政策づくりに取り組んでいる図司直也教授。
現地の人と触れ合うことを大切にしながら、地域の価値向上に尽力しています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科 教授 図司直也



未来の日本が直面する問題に
先行して取り組む

農業経済学を専門に研究を続けています。主に、農業をなりわいとしていく地域社会の構造や経済活動の実態を調査し、そこでの問題点や課題を浮き彫りにして、改善点を探りながら政策として提言しています。

研究対象として特に着目しているのが、山間地とその周辺地域である中山間地域です。農業生産の条件が厳しい農山村ですが、豊かな自然環境、潤沢な水資源、長年の技術や知恵など有形無形の地域資源が数多く残されています。国土保全の観点からも、みすみす廃れさせてしまいうわけにはいきません。そのために、できるだけ現地に赴いて地域住民の方々から生の声を聞き、時には共に汗を流しながら、その地域の特性を把握することに努めています。その上で、少しでも地域の価値を磨き高めるお手伝いができないかと模索しています。

農業はグローバルな規模で影響を受けやすいだけに、地域になじむ政策を考える必要があります。ただ、現場で苦労している方々は、自分たちの現況や問題点を客観視する余裕はありません。だからこそ現場を知る第三者が関わることで、地域の強みを見いだし、

具体的な行動につながる指針づくりへの助言ができると考えています。

さらに、過疎化・高齢化にまつわる課題はいずれ都市部にも降りかかります。すでに多摩キャンパスのある東京・多摩地区などの都市郊外でも、人口減少の影響がささやかれています。

超高齢社会を迎えた日本では避けようのない未来の課題解決に向けて、先行して実践事例に取り組んでいると捉えて、知見やノウハウを蓄積していく姿勢を大切にしています。

研究・教育・現場貢献の三つを成し遂げたいと大学教員の道へ

大学時代、教室に置かれていた、熊本県小国町でのフィールドワークに参加を呼び掛ける一枚のチラシ——。それを偶然手にしたことが、私の人生の分岐点でした。

フィールドワークを通じて現地の人たちとの距離が縮まると、そこで起きている問題や、そこで生きる人の思いが人ごとではなくなります。地域の人の意見交換の中で、「よそ者」の自分でも、現場に寄り添いながら課題解決に携わること、役に立てることがあると実感したのです。

やがて、課題解決のためのノウハウを蓄積する「研究」、次世代を担う人材を育成する「教育」、地域の持続性



学生時代には「地域づくりインターン」に継続的に参加。山梨県小菅村を訪れている時に開催された地区の祭りは、いい思い出となった



岡山県津山市知和地区にて開催したゼミのフィールドワークでは、地域農家の稲刈りや天日干しのための稲架（はさ）掛けで汗を流した（2018年秋撮影）



一般財団法人地域活性化センター主催の「全国地域リーダー養成塾」でも人材育成に協力。2021年秋の現地研修で宮崎県日南市・坂元棚田の保全活動を視察

を高めるために有効な「政策づくり」という三分野で社会に貢献したいと考えるようになり、その実現が図れる大学教員を目指しました。

縁あって現代福祉学部の教壇に立つようになり、大学と社会をつなぐ立場で農業・農村地域政策の問題に包括的に関われることは感謝していますし、大きなやりがいも感じています。

それだけに、コロナ禍の影響で現地を訪れることが難しくなったことは、残念でした。たとえ数日でも同じ地で過ごして語り合い、体験を共有することで心の距離も縮まるので、政策づくりの効果が高まるからです。

学生の学びも、机上で習得できる知識よりも、体験から得られる実感の方が印象は深まります。

これからのポストコロナの時代を見据え、現場との距離感を縮めるオンラインの手段も活用して、フィールドへのアプローチに創意工夫の必要性を感じています。

洞察力を磨き、 いい出会いを果たしてほしい

社会に出てどのような職業に就こうとも、人との関わりは欠かせませんし、多くの課題に直面するでしょう。二つの姿勢を大事にすることが、その備えに役立つと思っています。

一つ目は「洞察力を磨く」。社会で直面する問題は複雑です。いくつもの事情が絡み合い、解決を難しくしている問題もあります。困難な状況にあっても、投げ出すことなく向き合い、自分が果たせる役割を見つかったり、対処する方法を考えて行動するなどしなければ解決にはつながりません。洞察力を培っておくと、状況の把握や全容の推察に役立つので、解決策の手掛かりを得やすくなります。

二つ目は「すてきな大人に出会って話を聞く」。人がどのようなプロセスをたどって、今居る場所にたどり着いたのか。それを知ることが、自分の行く末を考える上での出発点になります。私自身、恩師をはじめとして、多くの先輩方に出会い、背中を追うことで成長してきました。先輩方が歩んできた足跡をそのままたどるのではなく、自分なりにアレンジして、学生に伝えていく。それが、私自身の「実践知」につながると思っています。

Zushi Naoya

1975年愛媛県生まれ。東京大学農学部農業構造・経営学専修卒業、同大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻博士後期単位取得満期退学。博士（農学）。財団法人日本農業研究所研究員を経て、2007年に本学現代福祉学部専任講師として着任、2009年より准教授、2016年より現職。地域振興・人材育成に関するアドバイザーとして、農林水産省の有識者委員会にも参加。「中山間地域等直接支払制度に関する第三者委員会」では委員長を務める。

小 金井キャンパスで活動している漫画研究会（以下、漫研）。「在籍部員は約60人で、絵を描きたい人もいれば、お気に入りの作品について語り合いたい人とさまざまです。それぞれが、和気あいあいとした雰囲気を楽しんでいます」と部内の様子語るのは、前代表の上田さん。

活動の成果物として、大学祭までに完成させることを目標に、年1回のペースで部誌を制作しています。「大学祭では、部誌の他に缶バッジやラミネートカードなど、部員たちの作品を基にしたアイテムも展示し、気に入ってくれた方には無料配布しています。最新号の部誌は好評で、用意した分が全てさばってしまいました」と達成感をにじませます。

「魅力的な世界観の絵を描く先輩がいて、一目で魅了されたことがきっかけで入部を決めました」と語るのは、中学生の頃から絵を描くことを楽しんできたという菊池さん。タブレットとタッチペンを駆使しながらオリジナルのデジタル画を仕上げられています。「先輩に描き方を教えてもらったり、他の人に作品を見てもらったことが、いい刺激になります。もった技術を磨いて、いつかは自分の作品集となる同人誌を制作し、学外のイベントで配布してみたい」と目を輝かせます。

小金井漫画研究会

**和気あいあいと
刺激し合いながら
絵を描く楽しみを共有**



クラブ・サークル

前列左から、上田陽太さん(生命科学部応用植物科学科3年/前代表)、八藤丸菜さん(情報学部デジタルメディア学科3年)、後列左から、大橋健人さん(理工学部経営システム工学科1年)、菊池琉聖さん(情報学部デジタルメディア学科2年) ※撮影時のみマスクを外しています



年1回発行の部誌「フルシング」は、大学祭などで無料配布している。2021年に発行した最新23号は28作品掲載で全506ページと、歴代最厚のボリューム

夏合宿はアメリカキャンプ村(東京都奥多摩町)で開催。アウトドアでのアクティビティを楽しみながら親睦を深めている(2019年に撮影)

テーマに沿っていけば、サイズも画材も自由というルールで開催しているお絵描き会。完成後は、それぞれの作品に対して参加者から感想が伝えられる

コロナ禍の影響で2020年以降はオンラインでの活動が中心になっています。毎回変わるテーマに合わせて自由に絵を描き、完成後にそれぞれの絵を披露し合う「お絵描き会」は、ミーティングを兼ねて週1回程度の頻度で開催しています。絵を描き慣れていない人のために、部誌掲載用の漫画を描くための基礎講座や描画ツールの使い方を紹介する講座なども不定期で開催しています。

「オンラインのお絵描き会には、卒業された先輩方が参加してくれることもあり、交流しながら知見を広められることが楽しいです」と語るのは大橋さん。「漫研に入ってから絵を描くことも興味が湧いたので、いま勉強しているところです」と自身の可能性を広げています。

「どの作品に対しても温かい評価をくれる人ばかりなので、描き手として励みになります。ジョークのつもりで描き始めた作品は、のせられるままにシリーズ化してしまいました」と笑顔を見せたのは八藤丸さん。「お題があることで新しい挑戦ができるお絵描き会は、絵を描く楽しみを広げてくれる貴重な機会です。卒業してもふらりと参加できるように、ずっと続けていきたい」と後輩たちにバトンを託します。

公 公共政策の研究に取り組んでいく土山・廣瀬ゼミ。2020年度までは廣瀬克哉教授がゼミを運営。2021年4月の総長就任後は新任の土山希美枝教授に引き継ぎ、校務のない時にサポートとして加わっています。「共同運営のゼミならではの強みを感じてほしい」という両教授の願い通り、「二つの視点から知見が得られるので、より広い視野で政策課題をとらえ考えるようになりまし」と語るのは藤田(涼)さん。「ハイフレックス型授業が始まり、土山先生の提案で学生の意見を書き込んで共有するオンラインツールを利用し始め、個々の考えが一元化されて見え分りやすくなりました」と、新たな体制でオンラインならではの学びが強化されたことを喜びます。

学生は2年次から3年次にゼミに所属。年間を通じて参考文献を講読して基礎力を磨き、年度末ごとに1本ずつ論文を書き上げていきます。初めての論文執筆に取り組み藤田(大)さんは「映像作品を用いた、シティブロモーションをテーマに考えています。将来は、芸術が盛んな地元地域の活性化に貢献していきたいと思っていますので、その礎となる研究にできるように検討を重ねています」と、自身の未来にも思いをはせます。

ゼミ活動の主軸は、日本公共政策

**法学部政治学科
土山希美枝教授・廣瀬克哉教授ゼミ**

**地域の活性化につながる
公共政策を提案する
学生向けコンペで実績**



ゼミナール・研究室

前列左から、藤田大聖さん(国際政治学科2年)、土山希美枝教授、廣瀬克哉総長、鈴木絳里さん(政治学科3年)、後列左より、山下芽久さん(政治学科2年)、須山和香さん(政治学科3年/ゼミ長)、藤田涼子さん(政治学科3年) ※全員、法学部 ※撮影時のみマスクを外しています



2021年10月に日本公共政策学会と新潟県加茂市が共催した学生政策コンペ「公共政策フォーラム2021 in 加茂」で準優勝となる加茂市長賞を受賞

2021年度のゼミは、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、オンラインでも対面でも受講できるハイフレックス型授業で進行

コロナ禍前には、現地調査を兼ねて学生政策コンペの対象地域に赴いて夏合宿を開催。2019年度は宮城県岩沼市を訪れた

学会が開催する学生政策コンペへの参加です。2021年度は新潟県加茂市が対象地域となりました。「プロの音楽家を招いて『第九』を合唱する音楽イベントを催し、地域活性化を図る政策を提案。準優勝にあたる加茂市長賞を受賞しました」と語るのは鈴木さん。「本格的なオーケストラピットを備えた貴重な文化施設である加茂文化会館を生かし、コロナ禍で失われた地域の娯楽に焦点を当てたことを評価していただきました」と成果を誇ります。

調査段階での印象的なエピソードを語るのは山下さん。「文化、特産物、教育・高齢者の3テーマに分かれ、電話やオンラインでの聞き取り調査を進めました。加茂市音楽協会の方は特に協力的で、文化班の検討会議にオンラインで参加し、実態に基づく助言をくださいました」と、感慨深く振り返ります。

「昨年度は政策コンペが中止になってしまったので、今回評価をいただいたことは大きな励みになりました」と語るのは、ゼミ長を務める須山さん。「芸術や文化の振興は地域にどのような影響を与えるのか。それを調査し、深めていく過程はやりがいのあるものです。将来、自分自身が地域貢献を考える上での糧にしていきたいです」と決意を新たにします。

※1 ハイフレックス型授業：対面授業とオンライン授業を併用し、どちらでも受講できるしくみ
※2 オーケストラピット：オーケストラが演奏する劇場内で、ステージと客席の間に設けられた大きなくぼみのような空間

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



空手部

撮影場所：市ヶ谷総合体育館内
空手場
撮影：田中伸弥
集合写真：空手部提供

空手部は、選手とマネージャー合わせて現在34人で活動しています。練習は週6日、平日はキャンパスごとに分かれ、休日は全員が市ヶ谷キャンパスに集まって汗を流しています(感染状況によって異なります)。夏季および冬季の長期休暇中には、心身ともに一層の向上を図るため、合宿や強化練習を行っています。2021年度の戦績は、第65回全日本学生空手道選手権大会(個人戦)に6人が出場し、第64回関東大学空手道選手権大会(団体戦)では第3位という結果となりました。これからも空手部は各大会での優勝を目標に掲げ、部員一同練習に励んでいきます。温かいご声援をよろしくお願いいたします。

Message

「自由を生き抜く実践知」を
体現している
学生の声を届けます。

世界に届け！ 私たちのアップサイクルマスク

現代福祉学部臨床心理学科3年

Sakata Mei

酒田 芽依さん



パキスタンへ届けたアップサイクルマスク

大学入学後に始めた障がい者福祉のアルバイトの影響で、海外の障がい者福祉についても興味を持つようになり、1年生の夏休みには単身で東南アジアに赴きました。訪れた場所では、障がい者が物乞いをしている現場を目の当たりにし、障がい者福祉の制度が整っていない現状に、問題意識が芽生えました。

大学2年生では、大学主催の「SDGsで南アジアとつながる、新型コロナと障害者の生活」というミニレクチャーに参加しました。その中で、パキスタンでは口元が透明なマスクが手に入りづらく、難聴者はマスク生活で特に困難に直面している現状を知りました。そこで私にもできることはないかと考え、この問題に関心をもち、学生と一緒に、現代福祉学部の佐野竜平先生の協力も得ながら、SDGsをテーマに口元が透明な

「アップサイクルマスク」の製作を始めました。マスクには着る機会がなくなくなった着物、大学の廃棄物集積場にあったビニール傘や靴紐などを使用しました。

試作段階では、当事者のニーズに合わせることを心掛け、難聴者だけでなく手話の先生やアップサイクルに取り組む一般社団法人の方など、広く助言を求め、多角的な視点を持って製作しました。現地では曇り止めが手に入らずマスクが曇ってしまうことや、透明部分が小さいといった様々な課題が出ましたが、洗剤で曇り止めの代用をしたり透明部分を広げたりする工夫をして改良を重ね、試作品を完成させました。

そして、手話の講義や立教大学の学生に声をかけ、計15人の有志を集めてより本格的なマスクの製作を始めました。完成したアップサイクルマスク30枚は、パキスタンのカラチに住む聴覚障がい者団体に寄贈しました。

この活動は現地の難聴者の方々にとても喜ばれ、さらには斬新さやアイデア性が学部から認められ、優秀な学外活動として表彰されました。現状から課題を把握し、そのニーズに合ったものを提供するという、臨機応変さはコロナ禍といったイレギュラーな状況においてとても重要だと活動を通して学んだので、これからも「今できること」を考えて行動していきたいと思っています。



※アップサイクル
廃棄物や不要品を、品質や環境価値の高い品(または材料)に作り替えること。

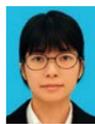
アップサイクルマスクの活動に関する詳細は
大学ウェブサイトにてご覧いただけます。



後援会だより

親子でつづる法政の4年間

充実した4年間



文学部
西尾 果織

大学生活の4年間は、私にとってはあつという間でした。その中で、私はさまざまなことを学び、また多くのことを経験できたと思います。

私は、2次元コンテンツに夢中なオタクの心理を知りたいと思い、心理学科を受験して法政大学に入学しました。大学の4年間、2次元コンテンツや言語心理学だけでなく、さまざまなことを学ぶことができました。特に、発達心理学や学校心

理学の授業は、赤ちゃんや2歳ぐらいの子どもの心理を対象にするなど、学校で起きている問題についてよく理解し、考えるよい機会になったと思います。

サークル活動では自作の小説を人に読んでもらって感想や指摘をもらい、アルバイトにおいては社会で働くことの責任と自分でお金を稼ぐことの大変さを実感し、趣味ではいろいろな場所で行われるイベントに一人で足を運び、高校時代には体験できなかった多くのことを経験できました。3年生になった頃から新型コロナウイルス感染症が流行し、やろうと思っていたのにできなくなってしまうこともありました。自分でお金を稼いで

趣味も充実させるとするのは、大学生になってようやくできることなのかもしれないと思いました。

こうして、学業でも趣味でも充実した日々を過ごすことができたことが、大学院に進学してよかったと思う点です。卒業まで残りわずかですが、この充実した日々を大切にしていきたいです。



サークル「創作同盟くりめいと」で作った冊子「役割」

大学での成長



西尾 純子

桜の見頃も終わってしまった入学式からはや4年。時々話してくれる大学生活では、先生のみならず職員の方との触れ合いもある様子で、皆さまに温かく見守られているのだなと感じていました。

入学前は自分から動くタイプではなかったのに、いつの間にか自分の意見を持ち、行動できるようになっていましたね。コロナ禍で十分な学生生活は送れなかったかもしれないけれど、「充実した学生生活を送れた」という言葉を聞けたことが何よりうれしかったです。卒業おめでとう。これからもずっと応援していますからね。

息子よ、ありがとう



鎌倉 明広

君が東京へ旅立って4年。私も上京した学生だったから、法政大学への進学を決めた時は本当にうれしかった。一緒に部屋を探し、家具をそろえ、銭湯巡りした時は18歳に戻れた気がしたよ。さまざまな苦労があったと思うし、特に後半2年間は変化に対応し、努力したと思う。私の子として生まれてきてくれてありがとう。私は君が生まれた時から、そして今もなお、新しいこと、忘れていたことに気付かされている。これから苦労もあるが、すてきな人生が待っている。いつも陰ながら応援している。卒業おめでとう。



研究の日々を過ごした中村教授の研究室

法政大学で学んだ日々



理工学部
鎌倉 悠暉

2018年春。私は法政大学への進学を決意し、岩手県から上京しました。東京での一人暮らしは初めてのことがばかりで慣れるのに必死で、最初は学業も思うような結果が出ず、焦りばかりが先行する日々でした。しかしこの経験が、本気で勉学に集中しようという決意を抱かせてくれました。授業の合間や放課後の隙間時間を見つけては、図書館で予習と復習に励みました。もちろん勉学だけでなく、部活動はソフトテニス部に所属

し、大会や山中湖での合宿、仲間とのスノーボードなど学生ならではの経験はともかけがえない思い出です。

授業で学んだ、半導体やナノ材料などの固体材料と光の相互作用に基づく現象に興味を持ち、ゼミには中村俊博教授の研究室を選びました。ナノ光物性の工学応用に関する研究で、私は半導体を用いた「ランダムレーザー」というテーマに取り組んでいます。研究室では授業だけでは得られない知識を補うことができ、教授や先輩方にたくさんのお話を教わることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

研究者としての道へ



生命科学部
小宮 優衣

私は生命科学部環境応用化学科で粉体工学を学んでいます。今は研究室で好きな研究ができていますが、2年次はコロナ禍で研究室の見学がもとにできず、研究テーマも曖昧なまま希望を出しました。研究室が決まるまでは不安でしたが、仲間と励まし合いながら乗り越えました。その後、森隆昌教授の研究室に所属し、現在は「汚泥を肥料として有効利用するための研究」をしています。

大学院進学は、入学当時の目標でしたが、成績が良い方ではなく、一般受験をするしかありませんでした。就職活動か大学院受験かを決めかねていた時、研究室で最も興味のあるテーマを担当することが決まり、それに背中を押され受験を決めました。合格が分かった時は、両親と共に涙を流して喜びました。それからは研究に没頭し、実験の日々を送りました。その成果が認められ、卒業前に学会で発表する機会を頂け、努力がこのような形で実を結んだのがとてもうれしく、自信も少し付きました。

私は幼い頃、白衣を着て研究に励むのが夢でした。法政大学でこの夢をかなえられるのが本当によかったと感じています。これは一人では到底成し遂げられるもの



九州大学と共同研究の実験風景 (森研究室にて)

ではなく、森教授に心より感謝しています。恩返しをし、夢である研究者になれるよう、大学院進学後も精進していきたいと思っています。最後に、私の選択を喜んで受け入れ、精神面でも資金面でも支えてくれた両親に感謝を申し上げます。

夢に向かって進む娘に



小宮 美知代

大学卒業おめでとう。在学中は空手に吹奏楽そして学業、趣味はバスケットボールに舞台鑑賞と随分欲張りな学生生活を送ったのだと感心します。子どもの頃の夢をかなえて理系の道に進み、さらに大学院への進学を決めた今、私はあなたを誇りに思います。憧れの白衣をこれからもずっと着続けられるよう応援しています。私はいつまでもあなたの味方であることを忘れないでください。

また、法政の高校PTAから大学後援会までの期間をあなたと共に歩めたこと、楽しかったです。感謝しています。

充実した4年間



社会学部
矢沢 太一

私は、後悔することのない4年間を過ごすという思いを持って法政大学に入学しました。振り返ってみると、学業や日々の生活を通じて大きく成長でき、またサークル活動を中心にかけがえのない仲間に出会うことができました。

学業面では、社会政策科学科の島本美保子教授のゼミに所属し、環境経済学について学びを深めました。主に遺伝子組み換え食品やゲノム編集について研究し、これからの人生において不可欠な食生活の大事な知識を習得できました。今

後は多くの教授から学んだ社会学の幅広い知識を活用し、より良い社会を実現することに尽力していきたいと考えています。

課外活動では、小学生の頃から10年以上続けた野球のサークルに所属しました。関東制覇というチームの目標を達成すべく、日々練習に励みましたが結果的には達成することができませんでした。しかし、それまでの過程や仲間と過ごした時間は一生の宝物となりました。

入学前に自分が思い描いていたよりもはるかに充実した4年間を過ごすことができたのは、多くの周りの方々の支えがあったからです。特に、憧れであった東京に私を送り出し、応援してくれていた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。この感謝の気持ちを忘れずに、これから

は感謝される側の人間を目指し、成長し続けていきたいと思っています。



サークル「ZEUS」の仲間(2020年12月の大会出場時)
※撮影時のみマスクを外しています

社会人となる息子へ



矢沢 秀弘

卒業おめでとう。武道館での入学式からあつという間の4年間でしたね。人生で一番自由に楽しく充実した時が過ぎた大学生活は、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな制約を受け、思いどおりにならなかったことも多かったと思います。でもこの4年間で巡り合った多くの皆さんは君にとってかけがえのない財産になることと思います。学生時代の学びや経験はこれから社会に出て必ず役に立つはずですよ。

「自由を生き抜く実践知」の学びを胸に、法政大学卒業生であることを誇りに社会人として羽ばたいていってください。

4年間を経て



経済学部
堤こまち

関東圏で就職したいという思いで志望校を決め、法政大学の受験を決意しました。高校の多くの同級生が地元国立大を志望している中、「なぜ私立を受けるのか？」と学校からの風当たりが強い受験生活でした。

経済学部で過ごした4年間は、口では言い表せないほど濃密でした。友に恵まれ、環境に恵まれ、自分の裁量で学ぶ内容を決められるという大学生活は、今後二度と経験できないものだと思います。

最初はあまりの大自然に驚いてしまった多摩キャンパスも、卒業が決まった今は、とても恋しく感じます。

春休みを利用して参加した米国での語学研修では、現地の人たちはもちろんのこと、私と同じように留学で来ている韓国人やペルー人の学生たちとも交流することができました。

母国語の通じない環境に初めは苦労しましたが、日々の生活から留学先での学習に至るまで英語漬けの毎日を送ることで、英語力だけでなくグローバルな新しい価値観も得ることができました。終わって見ればアメリカで過ごした1カ月は私のかけがえのない財産になりました。



オレゴン州ポートランドのホストファミリーと訪れたマルトノマ滝

4月から始まる新社会人としての生活では、これまでの自分を大事にしつつ、コロナ禍などの変化に順応して生きていければと思っています。そして、両親をはじめ、私を支えてくださった全ての人たちへの感謝を忘れず、それに恥じない人生を歩んでいきたいです。

4年間の経験を糧に



GIS(グローバル教養学部)
山崎将平

私の4年間は挑戦の連続でした。高校で培った英語力を強みにGIS(グローバル教養学部)へ入学しましたが、そこでは自分の英語力がどれだけ不十分かを痛感させられました。高校で得た自信は入学早々に崩れ去り、今後4年間この環境でやっていけるのかという不安から始まったのを今でも覚えています。

少しでも早くオールイングリッシュの環境に慣れ、授業に付いていくためには大学の勉強だけでは足りないと思います、独

学での英語の勉強も同時に行いました。大学レベルの英語力を身に付ける勉強と大学の勉強を同時に行うのは大変でしたが、それを支えてくれたのがこの法政大学で出会った友人たちでした。彼らと過ごした4年間は刺激の連続で彼らの存在があったから努力することができたと言っても過言ではありません。その彼らの存在が私自身を成長させてくれました。今後も友人たちといつまでも語り合える関係性を継続していきたいです。

また大学生活だけでなく、就職活動も挑戦の連続でした。就職活動では、以前から興味があった、文系出身者の少ない職種に挑戦しました。就職活動の場では、英

語力を向上させる上で培った継続力と自分の興味のあることは積極的に学習するという強みを生かして、希望の職種で内定を獲得することができました。大学卒業後の人生も挑戦の連続だと思えますが、大学での4年間の経験を糧に努力していきたいです。



サークル「フラッシュモブ」の合宿先の体育館で

自分の人生を楽しんで



堤格

卒業おめでとう。入学時は、食事はちゃんと食べているだろうか、治安は？と毎日心配していましたが、今では料理の腕も上がり驚いています。ゼミやサークル、アルバイトも頑張りと、少しずつ社会性を身に付けて、とても頼もしく思います。

この4年間、留学などの経験、コロナ禍で経験した勝手の違う就活には、苦しいこともあったでしょうが、将来きつと役に立つと思います。一生の宝といえる親友ができたことは、親として一番の喜びです。人と比べず、自分の思いどおりに人生を楽しんでください。ずっと応援しています。

卒業に寄せて



山崎誠人

武道館での入学式からもう4年がたちます。子どもの頃からおとなしい性格ではありませんが、自分のやりたいことについてははっきりと意見を言い、それに向けてコツコツ努力をしている姿をいつも見てきました。法政大学への入学を決めた時も真剣な顔で話してくれたことをよく覚えています。この4年間でいろんな人たちと出会い、経験したことはこれから先の財産となるでしょう。社会人になっても、今と変わらず努力を惜しまずに頑張ってください。これからも応援しています。卒業おめでとう！

2021年度法政大学後援会表彰

後援会では毎年、法政大学の学生で、学術・スポーツなどで顕著な成果を挙げ、在学生をはじめ父母・卒業生など大学関係者に大きな感動を与え、本学の名を高めることに著しく寄与した者を表彰しています。

2021年度は、学術分野において難関試験に合格された19人、スポーツ分野において大きく活躍された4人が受賞し、2022年3月5日(土)の贈呈式で友利方彦後援会会長より表彰状と副賞が贈られました。各受賞者のコメントは、後援会ウェブサイトで紹介しています。



会長と後援会賞贈呈式出席者
※撮影時のみマスクを外しています

学術分野

【公認会計士試験合格】

- 石井 寛人(法学部4年)
- 井原 桃香(経営学部4年)
- 高橋 亮太(人間環境学部4年)
- 田村 秀明(経済学部4年)
- 村上 優斗(社会学部4年)
- 荒木 幸平(現代福祉学部3年)
- 大川 陽紀(経営学部3年)
- 川上 鈴音(経営学部3年)
- 高野 元喜(経営学部3年)
- 山崎 太陽(経営学部3年)
- 篠沢 伶(経済学部3年)
- 津村 優太(経済学部3年)
- 原 彬斗(法学部2年)

【国家公務員採用総合職試験合格】

- 内山 皓太(経済学部4年)
- 奥谷 颯汰(法学部4年)
- 前田 兼吾(デザイン工学部4年)
- 渡辺 寛明(経営学部4年)

【司法試験予備試験合格】

- 柏木 虎ノ介(法学部4年)

【司法書士試験合格】

- 堀田 息吹(法学部4年)

スポーツ分野

【重量挙げ】

- 澤登 健太郎(キャリアデザイン学部4年)
第67回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会
主将として団体優勝
- 第67回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会
+109kg級 大会新記録にて個人優勝

【サッカー部】

- 松井 蓮之(スポーツ健康学部4年)
2021年度総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント優勝
- U23アジアカップウズベキスタン2022予選第1位
- J1川崎フロンターレ入団内定

【水泳部】

- 宮本 一平(人間環境学部4年)
2021年度日本学生選手権
水泳競技大会200m個人メドレー種目優勝

【野球部】

- 山下 輝(経営学部4年)
東京六大学野球リーグ
通算成績18試合登板4勝5敗
- 東京ヤクルトスワローズ
ドラフト1位入団

法政大学後援会事務局

〒102-0073

東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F

TEL : 03-3264-9350

FAX : 03-3264-9367

E-mail : koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト

<https://www.hosei-koenkai.org/>





HOSEIミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

戦前戦後の本学を 見つめ続けた第一校舎

今から70年前の1952年3月、法政大学通信教育部の第1期生が卒業しました。敗戦直後の混乱の中で、働きながら勉学を続けた通教生たちの晴れ姿を見届けたのが第一校舎大講堂です。

実は、「第一校舎」は戦後の呼称で、もともとは「第三校舎」でした。1921（大正10）年、本学は現在の市ヶ谷キャンパスに移転。新築された木造3階建ての旧第一校舎や第二校舎は空襲で焼失しましたが、第三校舎と第四校舎（通称「六角校舎」）は焼け残ったのです。

第三校舎は本学初の鉄筋コンクリート造りで、1927（昭和2）年2月に竣工。翌月にこの第三校舎の講堂で卒業式が執り行われました。『法政大学報』（1927年4月号）によると、この時の卒業生数は、法文学部108人、経済学

部109人、予科488人、専門部133人。学部に進学した予科生の中には、法文学部哲学科で三木清に学び、後にキルケゴール研究の第一人者となる榎田啓三郎、在学中に全国の大学に先駆けて航空研究会を発足させ、全日本空輸（ANA）創業者としても知られる中野勝義もいました。

当初3階建ての図書館専用棟として計画された第三校舎は、専門学校から大学への昇格によって増加した学生を収容するため、教室と講堂を含む4階建てに変更して建設。新図書館には、それまでの約30から162へ席数を増やした閲覧室、約10万冊を収容する書庫が設置され、学習環境がおおいに充実しました。

第三校舎の設計者は、司法省の技師として裁判所や監獄の設計に

携わっていた、当時の建築界の権威・山下啓次郎です。山下は第三校舎のほかにも、本学の校舎建築を担い、1935年には法政大学工業学校校長に就任しますが、翌年急逝。漢詩を愛好し、本学野球部が東京六大学野球で初優勝した夜には、学生たちの前で即席の詩文を披露したといわれます。

第三校舎は戦後「第一校舎」と改称され、80年館が竣工するまで図書館として利用されました。2007年に外濠校舎竣工に伴って解体される際には、山下の孫でジャズピアニストの山下洋輔氏の協力も得て、「第一校舎設計者 山下啓次郎回顧展」が開催されました。

戦前から80年にわたり本学を見つめ続けた第一校舎。現在の市ヶ谷キャンパスになる前には、この



1 第一校舎の看板。解体時に取り外され、校舎を物語る資料として保管されている



2 山下啓次郎(1868-1931年)。戦前の本学校舎を多く手掛けた



3 「法大」の文字が見える右が当時の第三校舎(後の第一校舎)、左が六角校舎(1931年撮影)



4 1980年代の第一校舎。右に58年館、その奥には80年館が写る

市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階にて
HOSEIミュージアム秋学期テーマ展示
「法政理工系のサステナビリティ研究」を開催中
(2022年4月まで)
詳細はHOSEIミュージアムウェブサイトをご覧ください。



校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



応援メッセージの様子。菅義偉前内閣総理大臣(左上)、鈴木直道北海道知事(右上)、重量挙げオリンピックメダリスト・三宅宏実さん(左下)、フェンシングオリンピックメダリスト・見延和靖さん(右下)

「オール法政新年を祝う会」をオンラインで盛大に開催

例年、約1000人の校友・大学関係者が一斉に集う「オール法政新年を祝う会」は、2年連続でオンライン開催となりました。1月30日(日)の2回の配信は、昨年を上回る約4200人が視聴しました。

今回は「繋がる法政」今を伝え、未来に繋ぐ」というテーマを掲げ、次のようなコンテンツをお届けしました。

- 活躍中の卒業生からの応援メッセージ
- 校友会の取り組み紹介
- 卒業生が経営するお店を紹介する「法

政オレンジMAP」、校友会公式アプリ・電子会員証」、校友会員のための優待サービス(校友会クラブオフ)などの紹介

- 繋がる法政「リレー企画」
- 栃木県校友会、岡山県校友会、ハワイ法友会より近況の報告。複数の学生団体(SDGsに取り組み「SASH(サッシュ)」、留学生支援に取り組み「esquare(イーフォースクエア)」、被災地支援に取り組み「チーム・オレンジ」)より、活動状況の報告

■法政グッズの紹介

以上のさまざまなコンテンツを通して、法政ネットワークの大きさを感じられるひとときになったと思います。

今回は、「オール法政新年を祝う会」特設サイト(左のQRコードからアクセス)でアーカイブ配信をしています。ぜひご視聴ください。また、特設サイトでは、これまでのオンラインイベントやオンラインコンテンツも視聴いただけます。

司会を務めたアナウンサーの木村拓也さん(フジテレビ・左)と三谷紬さん(テレビ朝日・右)。撮影は市ヶ谷キャンパスで実施



「オール法政新年を祝う会」特設サイト

校友会では2021年から学生アルバイトを受け入れています。今回はその声をお届けします。

学生アルバイト 坂井実紅さん(社会学部3年)

公式アプリ、法政オレンジMAPなど校友会の新たな取り組みをウェブサイトで広めるのが私の仕事です。動画編集ソフトの使い方を一から覚えて動画を作るなど、新しいスキルも身に付けられ、楽しさも感じています。一緒に働く方々からは、校友会の会員に夢あるサービスを提供しようという熱意が伝わってきます。より多くの人にウェブサイトやオンラインコンテンツをご覧いただき、校友会の多彩な活動を知ってほしいです!

MISAWA

GO to FRONTIER

南極 × 宇宙 × ミサワホーム

ミサワホームは、国立極地研究所を通して、半世紀以上にわたり南極・昭和基地の建物建設をサポートしてきました。

数々の実証実験から得られたデータ・技術は、サステナブルな昭和基地の形成や、

宇宙での有人拠点建設、未来志向の住宅などに活用する予定です。

常に“あたらしい”に挑戦し業界をリードし続けているフロンティアスピリットを胸に、

まだ見ぬ暮らしを実現する「未来の住まいづくり」を目指して、さまざまなパートナーとの共同研究を進めています。

そして私たちは待っています。

より多くの方々へ、新しい豊かさをお届けできるよう、住宅という枠を超え、

一緒に新しいフィールドに挑戦してくれる仲間たちを…。

君と未来をつくる



南極・昭和基地



南極・昭和基地の建物建設をサポートし続けてきたミサワホーム。半世紀以上に亘る活動と南極の美しい映像をお楽しみいただけます。

写真提供 / 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

MISAWA **ミサワホーム**

法政大学の皆様へ

ミサワホームでは皆さんのエントリーをお待ちしています。

HP : <https://www.misawa.co.jp/corporate/recruit/fresh/>

@misawa_saiyou



水力発電・送変電設備のプロとして
共に豊かな社会を支えよう



写真：J-POWER 田子倉発電所(福島県)

J-POWER 株式会社J-POWERハイテック

本店所在地：東京都千代田区九段北4丁目2番5号(共益市ヶ谷ビル) <http://www.jphytec.co.jp/index.html>

法政大学の皆さまへ 技術系・事務系の皆さま、ご応募お待ちしております！

電話：03-3237-2323 E-mail:saiyou@jphytec.co.jp ※OB・OG訪問も受付中です。

くらしとしごと 夢ある未来

私たちはICTを通じて、
豊かな地域社会の発展と夢ある未来の創造に貢献します。



自慢の
職場環境

所在地
横浜

NEC
グループ



私たちはICTを通じて、豊かな地域社会の発展と夢ある未来の創造に貢献します。

株式会社ワイイーシーソリューションズ

〒231-0023神奈川県横浜市中区山下町22番地 山下町SSKビル
<https://www.yec.ne.jp/>
OB・OG訪問の申し込みはこちらから ☎045-662-3616



「すべてはお客様のために」

私たちの原動力は、お客様の声です。
難しいご要望にも真摯に耳を傾け、
絶えず時代の風を読み、
お客様の声にお応えしてきた足跡こそが、
私たちの歴史です。
時代が変わり、テクノロジーが進化しても
原点にある私たちの想いは、
今なお変わることはありません。
これからも私たちは、
エレクトロニクス業界の発展を支え続け、
新しい未来を切り拓きます。



<https://www.taxan.co.jp>

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地
TEL: 03-5657-0111 (代)
東京証券取引所1部上場(証券コード: 8154)
加賀電子グループ: 世界14ヶ国65社(国内23社/海外42社)



——<学生の皆さまへ> エレクトロニクス社に興味がある方、人と接することが好きな方、ご応募お待ちしております! ——
TEL: 03-5657-0125 (人事部) E-mail: recruit@taxan.co.jp 採用サイト URL: <https://www.taxan.co.jp/jp/recruit/graduate/>

エントリーはこちらへ

法政スポーツを盛り上げよう! 『法政スポーツインフォメーション』



- 各部の
情報ニュースが
読める!
- シーズンごとに
配信する
メールマガジン
- 応援日程を
自分の Google
カレンダーと
同期可能
- 参加費
入会費は
もちろん無料!

ウェブサイトへアクセス! ▶ <http://hosei-sports.jp>

法政スポーツインフォメーションは、法政大学体育会本部と法政大学後援会会員及びその出身者、卒業生、教職員が共同で立ち上げた法政スポーツコミュニティー(通称:HSC)が運営するスポーツ情報サイトです。体育会各部の試合情報や応援イベントをご紹介します。 「法政を応援する喜び」や「法政ファミリーの一員である喜び」をスポーツ応援を通じ、わかち合いましょう!

メールマガジンのお申し込み



QRコードもしくは、法政スポーツインフォメーションのサイトより「メールマガジン登録」にアクセスいただき、必要事項を記入の上、ご登録ください。応援情報はもちろん、各部の取材記事など法政大学のスポーツ情報を余すことなくお伝え致します。



お問い合わせ(法政スポーツインフォメーション運用事務局) info@hosei-sports.jp

開発型商社として 脱酸素社会の実現を 目指します



フコク物産は、製品の設計はもちろん、
新製品の構想段階から独自の企画製品をご提案するとともに、
自社工場や国内外の協力サプライヤーの持つ技術や設備、
研究部門を活用して高付加価値なモノづくりを実現します。

創立75周年

フコク物産株式会社

東京都大田区大森西2-32-7 フコク物産ビル
03-3765-3211
ご応募はこちら saiyou-2@fukoku-bussan.jp

法政大学の皆様へ
フコク物産株式会社では
皆さんの応募をお待ちしております。



	表紙	HOSEI EYE	特集	卒業生インタビュー	ESSAY	HOSEI PHRONESIS	MY CAMPUS, MY LIFE	Message	THE SCENE	HOSEI ミュージアム	その他
21年4月号	多摩キャンパス	第139回 学位授与式 3月24日(水) 日本武道館	<ul style="list-style-type: none"> ●ようこそ法政へ 2021年新入生へのメッセージ ●巻頭言 法政大学総長 廣瀬克哉 「この時期に大学生であることを貴重な機会だと受けとめて過ごしてください」 ●15の学部長から新入生のあなたへ 法学部長:中野勝部 / 文学部長:安東祐希 / 経済学部長:廣川みどり / 社会学部長:島本美保子 / 経営学部長:金容度 / 国際文化学部長:松本信 / 人間環境学部長:武貞徳彦 / 現代福祉学部長:水野雅男 / 情報科学部長:藤田信 / キャリアデザイン学部長:荒川裕子 / デザイン工学部長:福井恒明 / 理工学部長:木村光宏 / 生命科学部長:山下明泰 / GIS (グローバル教養学) 長:新谷優 / スポーツ健康学部長:鬼頭英明 	「戦略と起業家精神で同志と共に日本の未来を変えたい」 デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社 戦略コンサルティング部門 執行役員 棚橋 智さん	「職場に力を与える管理職を増やすために」 キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科 教授 坂爪 洋美	「細胞の再構成をテーマに 生物のメカニズム解明に挑戦」 生命科学部 生命機能学科 教授 金子 智行	●ゼミナール・研究室「プレゼンテーションと入念なフィードバックでスポーツビジネスへの理解と学習の質を高める」(スポーツ健康学部スポーツ健康学科 伊藤真紀准教授ゼミ) ●クラブ・サークル「仲間と協力しながら電池を動力源とするエコ車両つくりを奮闘」(機械研究会)	「今を必死に、かけがえのない経験を」 文学部 地理学科4年 保泉 杏介さん (法政大学応援団 第96代団長)	VOL.127 馬術部	VOL.017 「法政陸上の開拓者たち～法政初のオリンピック・大木正幹～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 2020年度自由を生き抜く実践知大賞1 BOOKS
21年5月号	市ヶ谷キャンパス	2021年・2020年 入学式	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリアセンターを利用してみよう ●学生相談室を利用してみよう ●2021年度新任 学部専任教員一覧 	「海外で多くのことを経験し 将来の仕事や人生に生かしたい」 Image Engine Design Inc. 平井 豊和さん	「外交文書から考える 日本外交と民主主義」 法学部 国際政治学科 教授 高橋 和宏	「現場の肌感覚と透察する力を武器に 地方自治を多面的に探求」 社会学部 社会政策科学科 准教授 谷本 有美子	●ゼミナール・研究室「個人の自由な視点で、都市形態の特徴や建築物の魅力を分析」(デザイン工学部建築学科 建築空間研究室 (安藤直見教授研究室)) ●クラブ・サークル「初心者も実力者も自然体でのびのびと泳ぎを楽しむ」(水泳同好会マリンプルー)	「ボランティアの在り方を考える」 文学部哲学科4年 佐久間 喜望さん (市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ (VSP))	VOL.128 準硬式野球部	VOL.018 「日本スキーの礎を築く～福岡孝行と法政大学白馬山荘～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 2020年度自由を生き抜く実践知大賞2 BOOKS
21年6・7月号	多摩キャンパス	法政グローバルデイ 2021	<ul style="list-style-type: none"> ●法政大学とSDGs ●最先端の分野がそろう大学院 	「農業の面白さや可能性を発信し、農場とこの地域を次世代へつなげたい」 えづらファーム 代表 江面 暁人さん	「アナログとデジタルをつなぐ数学」 理工学部 経営システム工学科 教授 磯島 伸	「スポーツマネジメントを究めて スポーツの発展に寄与する」 スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 准教授 吉田 政幸	●ゼミナール・研究室「『双方向変換』などのコンピュータシステムの基盤を支える技術を探求」(情報科学部コンピュータ科学科 コンピュータ基礎分野 基盤ソフトウェア研究室 (日高宗一郎教授研究室)) ●クラブ・サークル「K-POPのカバーダンス 息を合わせて完全再現を目指す」(K-POPダンスサークル「chumuly」)	「Well-being ～幸せな世界～」 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科4年 成澤 あゆみさん	VOL.129 陸上ホッケー部	VOL.019 「法政テニスの軌跡～法政初のデビスカップ代表・中野文照～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 2020年度自由を生き抜く実践知大賞3 BOOKS
21年8・9月号	小金井キャンパス	市ヶ谷キャンパス 55・58年館 建替工事竣工のお知らせ	<ul style="list-style-type: none"> ●巻頭言 法政大学総長 廣瀬克哉 「社会と約束を結び直し、法政らしさを創出していく」 ●2020年度決算について ●2021年度予算について ●HOSEIみらい募金 ●2020年度卒業生の進路状況について ●2021年度入試結果について ●社会をリードする「法政の研究ブランド」 	「世界はつながっている。それを感じてもらうため、活動で知った共通点を発信していきたい」 国境なき医師団 プロジェクト・コーディネーター 末藤 千翔さん	「経済学とデータ分析で 真実に迫る」 経済学部 経済学科 准教授 濱秋 純哉	「デザインとエンジニアリングを融合したメカニズムを探求」 デザイン工学部 システムデザイン学科 准教授 山田 泰之	●ゼミナール・研究室「お互いを尊重した、活発な意見交換の中で家族の在り方を考える」(キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 斎藤嘉孝教授ゼミ) ●クラブ・サークル「英語劇からスピーチまで「話す経験」を積み重ねて自身の英語力を磨く」(英語研究会ESS)	「諦めない走り」 社会学部 社会学科4年 鎌田 航生さん	VOL.130 バスケットボール部	VOL.020 「江戸東京研究センター (EToS) 特別展示 江戸と東京との連続性～文理の壁を越えて、現代的意味を追究～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 付属校短信 BOOKS 2020年度自由を生き抜く実践知大賞4
21年10月号	市ヶ谷キャンパス	2021年9月 卒業学位記交付式 / 秋季入学式	<ul style="list-style-type: none"> ●2020年度の研究・教育活動に対する受賞・表彰者の紹介 	「物事の良い面に目を向け、自分らしく前進していきたい」 editwise 代表、東京2020 オリンピック(セーリング)・パラリンピック(パワーリフティング) 競技大会 ベニューメディアマネージャー 西 朝子さん	「労働経済と40年、顧みれば」 経営学部 経営学科 教授 奥西 好夫	「誰も取り残されない社会をどのように構築するか考える」 人間環境学部 人間環境学科 准教授 佐伯 英子	●ゼミナール・研究室「学生コンペを通じて商品企画や販売促進のスキルを実践的に習得」(経済学部現代ビジネス学科 杉浦末樹教授ゼミ) ●クラブ・サークル「音に頼らない世界での「ろう文化」を理解するため手話を言語として学ぶ」(手話サークル「ちゅらたま」)	「コロナ禍で生きる、理系の力」 理工学部 応用情報工学科4年 菅原 太樹さん (小金井企画実行委員会 委員長)	VOL.131 ヨット部	VOL.021 「ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ(前編)～度重なる校舎移転のなかで発展～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 2020年度自由を生き抜く実践知大賞5 BOOKS
21年11・12月号	多摩キャンパス	体育会 フェンシング部の東京2020オリンピック 出場者が総長を表敬訪問しました	<ul style="list-style-type: none"> ●法政大学のグローバル教育2021 ●2021年度就職内定者オンライン座談会 「選考過程の大半がオンライン化 自発的な行動と情報収集がカギ」 	「授業にサークルに アルバイト、学生時代の経験はすべて糧になる」 株式会社NTTドコモ サービスデザイン部 アプリケーション開発担当 佐々木 千枝さん	「匠と媒体ー古典の継承」 国際文化学部 国際文化学科 准教授 深谷 公宣	「ロボット技術により、仮想現実を自由に動き回れるような未来を創る」 理工学部 電気電子工学科 准教授 中村 壮亮	●ゼミナール・研究室「地理学の観点から多彩なテーマに取り組み地域の現状や課題を見いだす」(文学部地理学科 伊藤達也教授ゼミ) ●クラブ・サークル「アクロバティックな動きの『創造、進化する武道』で自らの成長を感じる」(剣道部)	「『さまざまな視点に立って考える』ことでより良い作品を作る」 生命科学部 応用植物科学科3年 島崎 優也さん (小金井オープンキャンパス スタッフ代表)	VOL.132 ラグビー部	VOL.022 「ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ(後編)～念願のキャンパス～」	後援会だより 校友会だより HOSEI TOPICS 自由を生き抜く実践知(活動紹介) ブランディング推進チームの活動 BOOKS
22年1・2月号	市ヶ谷キャンパス	市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスで大学祭を開催	<ul style="list-style-type: none"> ●総長と学生の座談会企画 「コロナ禍においても『誰かのため』に主体的に行動する～自由を生き抜く実践知～」 ●資格・採用試験への挑戦 ●2022年度一般選抜に向けて 	「ハードルを最後までやり抜いたからこそ、悔いなく次の目標に進める」 陸上競技 110m ハードル選手 ミズノ株式会社所属 金井 大旺さん	「地球への負荷をさらに軽減する 21世紀農業における 病害虫防除」 生命科学部 応用植物科学科 教授 津田 新哉	「谷崎潤一郎や 越境文学を題材に言語と文学の在り方を探究」 GIS (グローバル教養学部) グローバル教養学科 准教授 グレゴリー・ケスナジャット	●ゼミナール・研究室「経営理論をベースに実践的な課題に挑戦し企業の未来を予測する」(経営学部市場経営学科 近能善範教授ゼミ) ●クラブ・サークル「箏・三味線・尺八で奏でる『三曲』の音色に魅了されて」(和楽器サークル「三曲会」)	「大学生活を捧げて、一生分の笑顔を見た」 経済学部 国際経済学科4年 佐伯 瞭さん / 社会学部 メディア社会学科4年 久保寺 竜誠さん (お笑いサークルHOS所属 漫才コンビ「リバイアサン」)	VOL.133 フェンシング部	VOL.023 「法政大学の歴史と個性を発信する新しい空間～ミュージアム・サテライト小金井 / 市ヶ谷～」	後援会だより 校友会だより 体育会の活躍 祝!箱根駅伝 本選出場決定! 陸上競技部 駅伝チーム紹介 HOSEI TOPICS BOOKS 付属校短信
22年3月号	小金井キャンパス	第98回箱根駅伝で総合10位 次回のシード権を獲得しました!	<ul style="list-style-type: none"> ●巻頭言 2021年度卒業生へのメッセージ 法政大学総長 廣瀬克哉 「『想定外』と『できなかったこと』を宝にして」 ●2022 Graduation 卒業 学生生活を振り返って ●ご卒業される皆さんへ 	「キャリア探しは卒業後も続く 成長するためには、変化も必要」 株式会社西武ライオンズ 広報部 リーダー 服部 友一さん	「思いやりの心はどのように育つのか」 文学部 心理学科 教授 渡辺 弥生	「条件の厳しい農山村の未来に向けて 現地に寄り添った政策づくりにまい進」 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 教授 関司 直也	●ゼミナール・研究室「地域の活性化につながる公共政策を提案する学生向けコンペで実績」(法学部政治学科 土山希美枝教授・廣瀬克哉教授ゼミ) ●クラブ・サークル「和気あいあいと刺激し合いながら絵を描く楽しみを共有」(小金井漫画研究会)	「世界に届け! 私たちのアップサイクルマスク」 現代福祉学部 臨床心理学科3年 酒田 芽依さん	VOL.134 空手部	VOL.024 「戦前戦後の本学を見つめ続けた第一校舎」	後援会だより 校友会だより 広報誌「HOSEI」総目次 2021年度 HOSEI TOPICS 2021年度自由を生き抜く実践知大賞 BOOKS

第40回多摩キャンパスコンサートを開催しました

2021年12月4日(土)、多摩キャンパス16号館EGG DOMEの5階多目的ホールで、「第40回多摩キャンパスコンサート」が開催されました。地域の大切な恒例文化行事であり、コロナ禍のため来場者数を制限しての開催となりました。



今回は若手を代表するチェリスト・伊藤悠貴氏と、世界的に活躍するピアニスト・三船優子氏が出演。バッハの無伴奏チェロ組曲やショパンの幻想即興曲など、なじみのあるクラシックナンバーが演奏され、その艶やかで深みのある美しい音色に、来場者は聞き入っていました。

「第55回全日本女子学生剣道選手権大会」で水川晴奈選手が優勝

2021年12月4日(土)、墨田区総合体育館で「第55回全日本女子学生剣道選手権大会」が開催され、水川晴奈選手(キャリアデザイン学部1年)が決勝戦で鮮やかな面一本を決め、優勝に輝きました。



(写真提供:剣道部)

「全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会」で団体優勝した重量挙げ部が総長を表敬訪問

2021年12月7日(火)～9日(木)に「第67回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会(1部)」が開催され、体育会重量挙げ部は、これまで8連覇を果たしていた絶対王者日本大学を破り、9年ぶりに団体優勝をつかみ取りました。



2022年1月14日(金)には、大会の結果報告のため、+109kg級で大会新記録を樹立した主将(当時)の澤登健太郎選手(キャリアデザイン学部4年)の他、部を代表した4人の選手が平良朝順監督らと共に、廣瀬克哉総長を表敬訪問。これまでの活動について廣瀬総長と平山喜雄常務理事に報告しました。

廣瀬総長は「一人一人が自らと戦い、団体の思いを背負い、お互いへのリスペクトがあってのこの勝利を心からうれしく思います」と選手たちの活躍をたたえました。

卒業後の図書館利用について

卒業後も引き続き、図書館を利用することができます。ご希望の方は「ライブラリーカード」を無料で発行しますので、公的身分証を持参の上、図書館にお越しください。

卒業した学部を問わず、3キャンパスの図書館を利用できます。また各館に所蔵の資料を、利用館に取り寄せることもできますので、利用しやすいところをご利用ください。

詳細は、図書館ホームページをご確認ください。

第44回法政大学懸賞論文の入賞作品が決定

第44回(2021年度)法政大学懸賞論文の入賞作品が決定しました。応募総数77編の中から、鈴木ひかりさん(グローバル教養学部4年)の『Is University Campus Gendered? The Experiences of Transgender Students in Japan』が最優秀賞に選ばれた他、入選14編、佳作23編が選ばれました(本年度は総長特別賞および優秀賞の該当者なし)。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、授賞式は2月28日(月)にオンラインで開催されました。

第17回デジタルコンテンツ・コンテスト表彰式を開催

2021年12月20日(月)に、第17回(2021年度)デジタルコンテンツ・コンテスト表彰式をオンライン開催しました。



コンテストへの応募総数は、静止画部門、動画部門、インタラクティブ部門合わせて83作品。審査の結果、優秀賞3作品の他、準優秀賞5作品、入選14作品が選ばれました(本年度はグランプリ受賞の該当者なし)。

人文科学研究科哲学専攻修士課程の丸山亮さんが「第37回暁烏敏賞」を受賞

大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程の丸山亮さんが、石川県白山市が主催する「第37回暁烏敏賞」を受賞しました。

受賞作品は、第1部門〈哲学・思想に関する論文〉の入選論文となった『清沢満之の死生観形成と宗教哲学確立との関係』です。

本賞は、人々の深い精神について幾多の評論を著した石川県白山市出身の真宗大谷派の僧侶、暁烏敏(あけがらす・はや)の功績をたたえるために設けられた賞です。

丸山さんは1975年に本学経済学部を卒業、定年退職後に大学院に入学し、69歳での受賞となります。



第1回IIST修了生と在学生との交流会を開催

2021年11月27日(土)、第1回IIST(総合理工学インスティテュート)修了生と在学生とのオンライン交流会を開催しました。IISTはサステナブルなグローバル社会を支える総合理工学を英語で学ぶ横断型大学院プログラムで、2016年の設立以来、30数人の修了生を輩出しています。



当日の参加者は、修了生6人(うち1人は博士後期課程在学中)と在学生6人、さらに理工学研究科周金佳准教授と教職員も加わりました。修了生から学生時代の思い出や現在の仕事や研究内容などが語られた他、フリートークでは少人数のグループに分かれて語り合い、終始和やかな雰囲気でお話が進みました。

当日の参加者は、修了生6人(うち1人は博士後期課程在学中)と在学生6人、さらに理工学研究科周金佳准教授と教職員も加わりました。修了生から学生時代の思い出や現在の仕事や研究内容などが語られた他、フリートークでは少人数のグループに分かれて語り合い、終始和やかな雰囲気でお話が進みました。



デザイン工学部の今井龍一教授が「第4回日本オープンイノベーション大賞 総務大臣賞」を受賞

デザイン工学部都市環境デザイン工学科の今井龍一教授が「第4回日本オープンイノベーション大賞」の「総務大臣賞」を受賞し、2月22日(火)にオンラインでの表彰式が開催されました。

2018年度に創設された「日本オープンイノベーション大賞」は、オープンイノベーションの普及と日本の科学技術イノベーション創出を加速することを目的として、オープンイノベーションの手法を効果的に実施する企業、団体、大学などを表彰しています。

今井龍一教授は「携帯電話基地局データから生成される人口流動統計」の取り組みが評価され、総務大臣賞の受賞に至りました。

2022年度奨学金制度と申請受付について(学部生対象)

2022年度に申請できる修学支援新制度や主な奨学金のご案内です。定期募集はこの時期のみとなりますので、申請を忘れないようにご注意ください。各奨学金の詳細や申請書類請求方法については、本学ウェブサイト「奨学金・貸費金制度」のページを確認してください(3月下旬掲載予定)。2022年度の奨学金申請は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から郵送で行います。

【高等教育の修学支援新制度】授業料減免と日本学生支援機構の給付奨学金の両方を受けられる国の制度です。本制度を利用中の方は申請の必要はありません。資料請求:4月14日(木)15:00まで / 書類提出締切(郵送):4月21日(木)消印有効

【日本学生支援機構貸費金】日本学生支援機構による返還が必要な奨学金の新規申し込みができます。本制度を利用中の方は申請の必要はありません。資料請求:4月14日(木)15:00まで / 書類提出締切(郵送):4月21日(木)消印有効

奨学金名称	対象学年	貸与額	奨学金概要(対象者)
日本学生支援機構貸費金①	1~4年生	(※1) 自宅通学生(月額)2万、3万、4万、5万4千円から選択	国の奨学機関である「(独)日本学生支援機構」が経済的理由により修学が困難な学生に毎月貸与する奨学金
		(※2) 自宅外通学生(月額)2万、3万、4万、5万、6万4千円から選択	
第二種奨学金(有利子)	1~4年生	自宅通学、自宅外通学に関係なく、(月額)2万円から12万円まで1万円きざみで選択	
		*利率は3%を上限(在学中は無利子)	

【法政大学独自の奨学金】6月に一括募集をする給付奨学金です。申請時期:5月13日(金)~6月14日(火)消印有効
奨学金案内や申請方法については5月13日から本学ウェブサイトでご案内予定です。

奨学金名称	対象学年	給付額	奨学金概要(対象者)
法政大学評議員・監事奨学金	1年生	(月額)25万円を上限	1年次入学者で関東1都6県以外の出身の経済的援助が必要な自宅外通学生
公益財団法人日本厚生文化振興財団記念奨学金		1年次入学者で経済的援助が必要な者	
法政大学後援会支部出身学生支援奨学金	1~4年生	(月額)20万円を上限	1年次入学者で申請時に保証人の現住所が1都3県以外の経済的援助が必要な者
新・法政大学100周年記念奨学金	2~4年生	(月額)文系20万円、理工系25万円	学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な者
法政大学サポーターズ奨学金		(月額)20万円を上限	
鈴木勝喜奨学金		(月額)50万円を上限	
福田明安奨学金	2~4年生	(月額)30万円を上限	学業成績が極めて優れ、教育上経済的援助が必要な者
一般社団法人法政大学校友会奨学金		(月額)文系25万円、理工系30万円を上限	
学友会奨学金		(月額)文系20万円、理工系25万円を上限	
大成建設株式会社奨学金		(月額)25万円を上限	
株式会社エイチ・ユー奨学金			
法政大学後援会クラブ奨学金			

2022年度定期健康診断を各キャンパスで実施します

春学期ガイダンス期間に所属のキャンパスで定期健康診断を行います。不調を感じる自覚症状がなくても、必ず全員受診してください。

※各キャンパス、学年などにより日程が異なります。

詳細は大学ウェブサイトなどで確認してください。



【その他の法政大学独自の奨学金】

奨学金名称	対象学年	給付額	採用条件
成績最優秀者奨学金	2~4年生	(月額)30万円	各学部2~4年生の前年度成績上位者【指名制】

*指名制のため申請不要です。奨学金候補者には6月中旬に大学から通知します。

本学には、上記のほかにも、学業やスポーツなど各分野で活躍した学生を奨励する奨学金や各学部独自の奨学金、外国人留学生を支援する奨学金、家計急変時に申し込める奨学金など、多様な奨学金制度があります。

【民間奨学財団・地方公共団体の奨学金】

給付型のものや貸与型のものがありますが、大学に奨学生募集が届き次第、随時Hoppiiのウェブ掲示板に掲載します。特に4月初旬に募集が集中し、申請期間も短いのでHoppiiのウェブ掲示板に注意してください。

各種奨学金制度の詳細は、本学ウェブサイト「奨学金・貸費金制度」のページに掲載する「奨学金ガイドブック」でご確認ください。

各キャンパス奨学金担当窓口

対象	担当窓口	連絡先
法・文・経営・国際文化・人間環境・キャリアデザイン・デザインE・GIS学部生	学生センター厚生課(市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階)	03-3264-9486
経済・社会・現代福祉・スポーツ健康学部生	学生センター多摩学生生活課(多摩キャンパスEGG DOME2階)	042-783-2151
情報科・理工・生命科学部生	学生センター小金井学生生活課(小金井キャンパス管理棟2階)	042-387-6011
外国人留学生	グローバル教育センター 事務部国際支援課(市ヶ谷キャンパス大内山校舎2階)	03-3264-5475

*1 貸与型は返還の義務があります。
*2 2018年度以降入学者の貸与月額です。5万4千円、6万4千円は併給基準を満たしている場合のみ選択できます。
*3 給付型は返還の必要はありません(ただし給付を受けた年度内に休学・退学などになった場合は返還を求められることがあります)。





世界でいちばん幸せな男 101歳、アウシュヴィッツ生存者 が語る美しい人生の見つけ方

「私はヒトラーさえも憎まない」。アウシュヴィッツなどの強制収容所に送られ、家族を殺された壮絶な体験から導き出したのは希望だった。人間が持つ絶望の淵から立ち上がる力を、アウシュヴィッツに収容されながらも生還した著者が語る。全世界に訴える感動の一冊。

エディ・ジェイク 著
金原 瑞人 訳
社会学部社会学科 教授
出版社：河出書房新社
発行：2021年7月



鴨川ランナー

日本という異国に住みながら、外国人と日本人の間をさまよう人々を描いた短篇2本。短篇の一つは第二回京都文学賞受賞作の「鴨川ランナー」で、京都で暮らす主人公の違和感を「君」という二人称を用いた独特の文章で内省的に描く。もう一つは「異言」で、福井の英会話教室を辞め、結婚式の神父役のバイトを始めた主人公が抱く心理の変化を描く。

グレゴリー・ケズナジャツト 著
グローバル教養学部
グローバル教養学科 准教授
出版社：講談社
発行：2021年10月



起業ストーリーで学ぶ会計

日本最大のコスメ・美容の総合サイト「アットコスメ」を運営する株式会社アイスタイルの実話と実データに基づき、起業の構想から新規株式公開（IPO）の舞台裏まで、リアルな臨場感と読みやすい記述で会社の成長の全貌を描写。ストーリーに紐づいた講義パートでは、会計の仕組みと分析法を体系的に解説。暗記学習で悩まれた方へもお薦め。

川島 健司 著
経営学部経営学科 教授
出版社：中央経済社
発行：2021年9月



禍いの大衆文化

天災・疫病・怪異

地震、火事、疫病などの「禍い」に襲われた人々は、さまざまな文学、絵画、芸能、信仰を生み出してきた。恐怖や悲しみを乗り越えるために、人々が作り出したものは何だったのか。災厄と救いの想像力をヒントに、民衆の心性に迫る。『日本大衆文化史』に続く大衆文化研究プロジェクトの第2弾。

横山 泰子 他8名 著
理工学部創生科学科 教授
小松 和彦 編著
出版社：KADOKAWA
発行：2021年7月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 3月号

令和4年3月20日発行
第49巻第2号（通巻729号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷株



法政大学生協同組合書籍部より

<小金井キャンパス>

安心して大学生協をご利用いただくために

コロナ禍の大学生活が始まって丸2年が経過し、大学生協としても徹底した感染防止策を施すようになって3度目の新学期を迎えようとしています。2022年度に入学される新入生や保護者の方に安心して大学生活をスタートしてもらえるよう、現在は先輩学生の経験と声と知識を結集しながら、準備を進めています。皆さまの2022年度の大学生活がより豊かになるよう、全力でサポートしていきます!

教科書販売に関しては、状況を鑑みて、店舗での対面形式やオンライン形式など柔軟に対応していきます。新学期準備の最新情報は、法政大学生協ウェブサイトをご確認ください。

(小金井購買書籍部)



自	由	を	生	き	抜	く
実	践	知	大	賞		



2021年度(第5回)「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を開催しました

2021年12月18日(土)に、2021年度(第5回)「自由を生き抜く実践知大賞」表彰式を市ヶ谷キャンパス外濠校舎6階薩埵ホールにて開催しました。

「自由を生き抜く実践知大賞」は、2016年に制定した法政大学憲章を体現する教育・研究などの実践を顕彰し、広く共有、発信することによって、大学憲章に関する理解を深め、法政大学ブランドをさらに強化、周知していくことを目的に設けたものです。賞の実施は、学部や部局横断の教職員メンバーで構成される「ブランディング推進チーム」が企画・運営し、2017年度より5回目の開催となりました。昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)拡大防止のため無観客で開催し、YouTubeによるライブ配信を行ったところ、延べ662件のアクセスがありました。

今回は、これからの時代を見据えた「Withコロナを生き抜く実践知」をテーマに募集した結果、多くの団体から素晴らしいエントリーがあり、34件の中から11件がノミネートされました。表彰式にはノミネート事例の担い手である学生・生徒・教職員が招待され、ノミネート団体が実践事例を紹介するプレゼンテーションを行い、廣瀬克哉総長による最終選考を経て決定した大賞ならびに各賞(法政大学憲章や憲章に連なる本学の理念などのキーワードを冠した4賞)が発表されました。またそれに加え、昨年に引き続きライブ配信の視聴・参

加者がオンライン投票にて選考を行い、「よき師よき友が選ぶ実践知賞」も決定しました。受賞者には、表彰状と副賞が授与されました。

廣瀬総長は全体講評として「制約のある事態に直面した時、多くの人たちが、何とかしようと考え、実行に移すことで、『自由を生き抜く実践知』という言葉を自分ごととして意識するようになります。コロナ禍は非常にさまざまな制約を私たちにもたらしている、思うに任せないことも少なからずあるというのは事実です。しかし、何とかそれを乗り越えようと努力をしている皆さんが取り組んだ経験から、きっと得るものがあると確信をしています。その得たものを大事にしながら来年度以降も活動をしていただきたいと思います。これからも皆さんの活動が、さらに実り多く展開されていくことを期待します」と述べ、最後にノミネートされた全ての実践主体ごとに写真を撮影し、閉会しました。

2021年度(第5回)「自由を生き抜く実践知大賞」の選定については、下記の記事でも紹介しています。受賞した実践事例以外にも、「実践知」を生み出している素晴らしい事例が数多く存在しています。ぜひご覧ください。

2021年度(第5回)「自由を生き抜く実践知大賞」選定理由とエントリーした全実践事例への総長コメントはこちらからご覧いただけます。



受賞取り組み一覧

受賞名	取り組み	実践主体
🏆 大賞	Webアプリ「MiNERVA」を用いたコロナ禍の安全な行事運営	小金井企画実行委員会
🏆 社会の課題解決賞	若葉台住宅ワクチン代行予約プロジェクト	現代福祉学部 保井美樹・今井裕久ゼミ
🏆 よき友への共感賞	あなたの部屋が法政大学(Your Room is Hosei University)	通信教育部 学生会サークル 市ヶ谷パッションズ(ICHIGAYA PASSIONS)
🏆 進取の学び賞	リレー講義「高校生と考える<COVID-19>」(全15回)	法政大学国際高等学校×法政大学
🏆 持続可能な未来賞	オンラインSDGsプラットフォームの開発	デザイン工学部 川久保俊研究室
🏆 よき師よき友が選ぶ実践知賞	オープンキャンパスの枠を超えた支援活動	多摩オープンキャンパスリーダーズ

※表彰式の映像はこちらからご覧いただけます。



大賞・各賞の実践事例や受賞者の感想などは「HOSEI PHRONSIS」、および本誌にて、今後、順次紹介していきます。
http://phronesis.hosei.ac.jp/





創業20年 次への躍進に向けて



2021年 株式会社エイチ・ユーは創業20周年を迎えました。
これまで育てていただいた皆さまに感謝し、
法政大学の100%出資子会社として、
皆さまに信頼される会社であるよう努めてまいります。

エイチ・ユーの6つの事業

総合(キャンパス)管理

- ①設備管理
- ②常駐警備
- ③清掃業務

物品販売・調達

- ①法政大学オリジナルグッズ制作
- ②グッズ販売・通販サイト
- ③納品・搬入

学生(教職員)サービス

- ①物件紹介サービス
- ②合宿・旅行サービス

教育・イベント

- ①運営サポート
- ②映像コンテンツ制作と活用

印刷・発送

- ①企画・デザイン
- ②印刷
- ③データ管理

大学事務業務受託

- ①教授室・教員控室運営
- ②大学法人のルーティン業務
- ③教室・会議室等貸出、管理業務



法政大学100%出資子会社

エイチ・ユー



2021年11月15日より、下記住所に移転いたしました。

【新住所】住所 : 〒102-0073
 東京都千代田区九段北3丁目3番5号
 法政大学九段北校舎8階
 電話番号 : 03-3264-9569
 FAX番号 : 03-3264-9845
 (電話・FAX番号は変更ございません。)